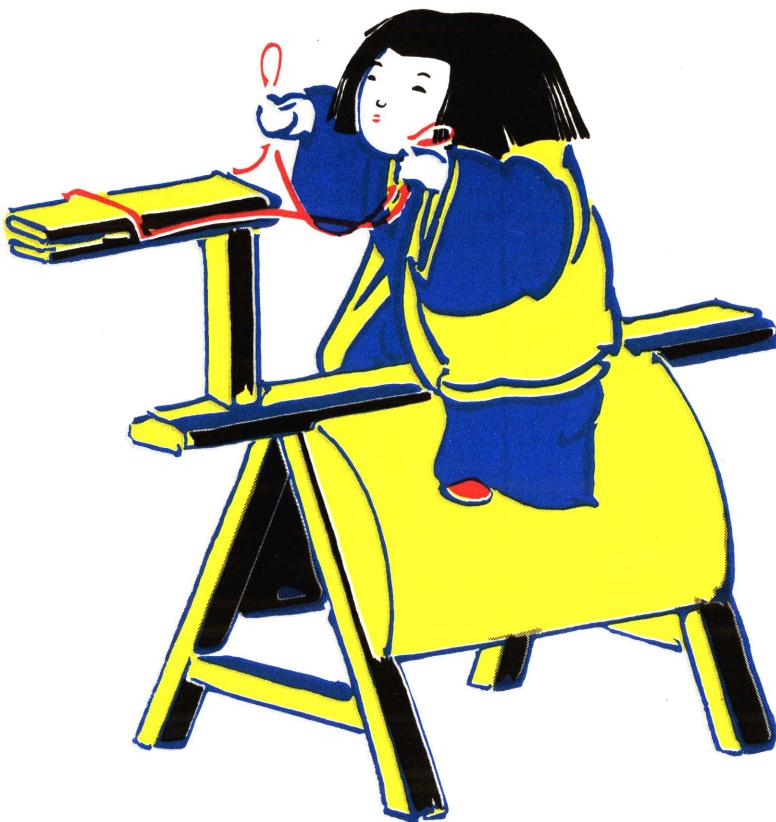


幼兒之教育



號十第 號月十 卷二十四第

東京子女高師等學校內

本日幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編　（五版）

改訂系統的保育案の實際

定價 金壹圓參拾錢 送料 金 八 錢

初版以來廣く参考の資料させられた本書は、時局下幼兒保育の再認識、特に國民學校の新制に對する用意の必要から到底舊版のまゝに止まるこことを許されなくなりました。全體に亘る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

幼　　稚　　園　　唱　　歌　　選　　集　　第二輯
幼　　兒　　の　　教　　育　　(月刊)

B列四號二八頁

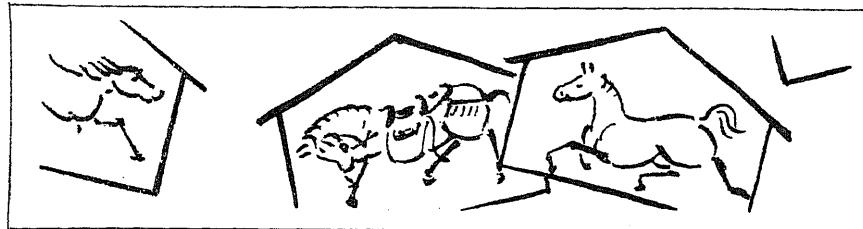
定　　價
送　　料
金　　壹　　圓

一ヶ月　　金參拾五錢
一ヶ年　　金四圓貳拾錢
送　　料　　送　　料　　共

六六二七一京東替振　會協園稚幼本日

五三塙大・川石小・東京高女附屬幼稚園內

大東亞戰爭必勝完遂



號十第 幼兒の教育 卷二十四第

—(次) 目—

- | | |
|------------------|----------|
| 戰時國民幼稚園(八) | 倉橋惣三(一) |
| 幼兒教育に於ける養護と鍛錬(一) | 加藤恂二郎(一) |
| 現時局下に於ける幼兒保育(一) | 齊藤文雄(八) |
| 萬葉に於て日本的感情を見る(九) | 倉橋惣三(三) |
| 十一月の保育 | 石井庄司(九) |

- | | |
|-----------------------|----------|
| 生活訓練 | |
| 自由遊戯 | 倉橋惣三(三) |
| 遊観 | 上遠文子(西) |
| 遊察 | 古澤靜子(天) |
| 談話 | 清水光子(元) |
| 手技 | 志村貞子(吉) |
| 誘導保育 | 及川ふみ(三) |
| 各地幼稚園 | 菊池ふじの(三) |
| 大石川縣女子附屬幼稚園・山口縣立深川幼稚園 | 作田唯介(壹) |
| 講習上 児童心理學(八) | 松岡唯介(壹) |
| 幼兒の母 | 牛島義友(四) |

- | | |
|--------------------------------|--|
| 鍛錬と心もち—幼稚園から—戰時家庭教育心得(二)(倉橋惣三) | |
| 讀上 兒童心理學(八) | |
| 幼兒の母 | |
| 子供向きお茶(佐々木理喜子)—十月の衛生(齊藤文雄) | |

新體幼稚園唱歌

四六倍判

五三町塚大・川石小・京東
内園稚幼屬附師高女京東

目次
日本旗の丸の旗 倉橋三作詞
日本旗の丸の旗 小松耕惣作曲
日本旗の丸の旗 上橋惣輔作詞
日本旗の丸の旗 武士作詞
日本旗の丸の旗 作曲

いうびんやさん
渡し場の船頭さん
火消しのをぢさん
小倉橋
小林
つや江
橋
大太郎
惣平三
作詞
作曲

日本幼稚園協會編

幼稚園新唱哥兒

四六倍判

金五拾錢

次	目
雨	め
	だ
	か
小杉	小山
松山	松村
耕米	耕き
輔子	輔よ
作曲	作曲
	詞曲
ふ	ほ
し	た
ん	
場	乃
小氏	小青
松原	松山
耕	耕綾
輔	輔子
作曲	作曲
	詞曲

〇、一、二の幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらることを期待してゐる。

戰時國民幼稚園

(八) 態常下戦態感

倉橋惣三

今はもう非常時といふ言葉は用ひられなくなつた。この言葉のもつ覺悟は正しいとして、そこに何なく感じられる臨時性、一時性が今日の實狀に合しないのである。當時いふことを基準にして、何かしら特殊のいふ感じが適切でないものである。今はもう、これが當時であるを感じがためられてゐる。

しかも、戦争前の無事生活に永く慣れて來たものにさつては、今日の生活態のあれもこれもが、常即ち、以前の狀態と違つてゐることを感じられる。それが尋常でないさいつた感じられ方でもある。そして、大きな意義ではよく分つてゐて、小さい末梢の不自由や缺乏が、常ならず感じられたりする。しかもこれは、今に即しないで以前の思ひ出に即してゐる痴愚の思ひに過ぎない。

ところが、ここに、その「以前」なるものを知らぬ子さもにさつてはさうであらう。今はくらべて彼れ之れを感じたりする標準をもたぬのである。以前の冬は炭が多かつたとも知らない。以前の米は純日本米で、以前のお辦當には大きな牛肉と鶏卵の料理が常であつたことを知らない。お菓子が毎日あつて、うんざ甘くて、たべ過ぎないやうにさばかり注意されてゐたことを、昔話の中のことに過ぎない。この緊縮、この粗末、これを生活のあたり前にしか感じてゐない。くらべる過去がないから、過去の體験を將來に置いて眺める夢もない。そうして、平然として之れを常態を感じてゐるのである。

實に之れが常態である。恐らく長期百年の常態であらう。我まんでもなく、忍苦でもなく、これがこのまゝに我等の生活の常であると覺悟せられてゐる。さすれば之れを非常と思つてはならぬ。少くも非常と思ふても何の意味があらう。寧ろ之れを常態感に於て迎へてこそ、生活の眞に敵するいふものである。

非常感するところに一味の常時の油斷が殘る。幸にして之れをしか知らない幼き者に、之れを非常を感じさせる要はない。子さも等の前に寒いいふまい。まづいいふまい。甘くないいふまい。之れに耐へるいふよりも、之れを當然尋常として平氣で居よう。そして、われ／＼が平氣であることによつて、幼き者——今日からの日本を擔ふて呉れるものゝ常態感を、假りにも動搖させることをすまい。

幼兒教育に於ける養護と鍛練 (二)

文部省督學官 加藤恂二郎

(五) 鍛 鍊

これから幼兒は單に病氣をしないでお上品におとなしいといふだけでは充分ではありません。もつて積極的に元氣のある、一寸位無理をしてからだに支障も生ぜず、すゝんで身心の苦痛をもぢつゝ我慢して、がんばる様な氣力も

體力もあるものにそだてることが必要であります。さうしなければ將來お國のお役にたつ様なものにはなれません。

從來の教育では、一個人間として完全なものをそだてあげるといふことを目標にいたしましたために、その兒童のもつてゐる個性を圓滿に發達せしめるといふことに重點がおかれ、そのためになるべく個性を殺さぬ様に、その一人一人をその獨自のものにしてゆかうといふ考が強かつたので、特に鍛鍊といふ様なことが問題として浮ひあがらなかつたのであります。

しかし乍ら眞に一個の日本人として將來お國のお役にたつものをつくつて行かうとするには、むしろ個性をのば

すといふよりも、——勿論このこゝも大切なこゝではあります——むしろこの究極の共通な目標にむかつて幼兒を鍛へることが必要になつてくるのであります。即ちすべての幼兒を皇國の道に歸りせしむる様な教育が要求せられるのであります。

最近まではよく「叱らずにそだてる教育」とか、子供は放つておく方がいいのだとか、いふ様なことが、教育者や父兄の口から漏れたものであります。さういふ風にして育てられた兒童は大きくなつて我儘になり、無氣力になり、學校へ行つても先生の命をきゝません。叱りますご腹をたてます。こんなのが工場にゆき、會社にはいり、役人になります。責任感もなく、自己反省も乏しく、服従心もなく、ごく我儘で、利己的で、始末におへないものが出来あがります。

こういふ意味におきまして、教育でも鍛成といふことが大切になつてきました。勿論幼兒のこゝでありますから、

あまりのゆき過ぎはいけませんが、やはりこの心構で保育をしてゆくことが必要であります。

教育審議会の答申に「幼児ノ保育ニ付テハ特ニ其ノ保健並ニ體ヲ重視シテ之ガ刷新ヲ圖ルコト」ありますことは御承知存じますが、この體といふ様なこゝにつきましても御注意を願ひたいのであります。

我國は明治のはぢめまではまことに禮儀の正しい國がらであつたのであります。わたくしは松江にゐたこゝがありましたが、明治二十年頃松江にゐたこゝのあるラフカヂオヘルン、小泉八雲さんのかゝれたものを読みますと、當時の日本人の禮儀正しさに感心して居られるくだりがあります。これが近年になつてはすつかりこはれてしまひました。また最近はいろいろ努力されてきましたのでいくらかよくなりつゝはありますが仲々充分さは云へません。こんなこゝは大きくなつてからでは駄目でありまして幼児の頃から鍛成しておかねばなりません。簡単なこゝでありますが、先生方が幼児に何かおつしやつたらハイと返事をするこゝがまだ行はれてゐません。この間も東京市内の幼稚園を二三拜見したのでありますが、先生がお呼びになつても知らん顔をしてゐるのがあります。それで話をするのをきいてゐるこゝ、なか／＼しつかりしてゐて、返事が出来ないほどのぼんやりした幼児ではありません。これは是非必ず

「ハイ」と返事をする様に體をしていたゞきたいのであります。

それから、大切なこゝは、自分の身の廻りのこゝはなるべく自分でするといふ習慣をつけさせること、例へば着物を脱いだり着たり、手を洗つたり、女の子なら髪をくしけづるこゝ、こんなことを他人にしてもらふ習慣がついては依頼心ばかり發達して駄目であります。

こゝもかく從來の幼児教育はそこし幼児を甘やかし過ぎたのではないかと思ふのであります。勿論、幼稚園によつては厳しそうなところもあり、幼児によつては厳しくやつてはかへつて悪い結果をきたす様なものもありますから、具體的にはそれぞれ適切な方法が必要ですが、概括して云へばさうも甘やかす方が多かつた。これは我國の保育思潮がさうされたのではなかつたかと思ふのであります。また幼児の父兄の要求がさうであります。

そこで近頃はすゝんで積極的な鍛錬が要求される次第であります。

鍛錬はある意味に於て苦痛が伴ひます。しかし苦痛を興へこれを堪へ忍ぶといふ習慣をつけるこゝも一つの教育であります。或は從來の教育では忘れられてゐたが實に大切な教育であるご思ふのであります。

我國の教育の傳統におきましては、この辛苦といふこゝ

が實に重んじられてゐるのあります。先哲のかゝれたものを見ましても、みなこの辛苦といふことを大切にあつかります。

艱難なんぢを玉にす云ひ、梅は寒苦を経て清香を發すといふ様な格言は我國に澤山あるのであります。

かの明治維新の先驅者であるところの橋本景岳先生が、安政六年、小塚原で刑死をさせられました際、懷中から一尺あまりの棒切れがでゝきたのであります。役人共はそれが何に使用せられたものであるか知らう筈はなく、さもなく先生の御遺物として福井藩の橋本家へ送りこゝけたのであります。ところが先生の母上がその棒切れを見られた時ハラハラと落涙せられました。即ちこの棒切れは先生が七歳位の頃、吉田東窓先生の塾に通つて勉強せられて居つたのですが、塾から歸つてこられますと、母上が復習を命ぜられ、針仕事をして居られる母上の前に端座して、論語や大學といふ様な書物をすらゝと読みくだされるのであります。しかし少しだでも間違へたり、姿勢をくづれたりするごとく、母上は膝元においてある一尺ばかりの棒切れをつてピシリと幼き景岳先生の肩をついたれ、その打ち方がまた尋常一様ではなかつたさうであります、先生は大きくなられましてからもこの母上にたゞかれました棒切を大切にふさごろに入れて持つてあるかれ、刑死に至る瞬間までも

放されなかつたのであります。

わたくしはよくかかる先哲のお話を學生にきかせるのであります。多くの方は感心するのでありますが中には、先生、それは選ばれた方々のお話でありまして、吾々凡人は到底そんな立派な方々の様にはなれさうにありません。

わたくし共は平凡な生活さへ送ればよいのでさういふ努力はさても出来ませんといふものがあります。しかし、お前はそれではほんとうに自分の云つてゐるところが立派なところが思ふかと尋ねますと、頭をかいて實は恥しいところだとは思ひますが申しますのであります。

これは西郷南州翁がその遺訓の中で「聖賢にならん」と欲する志なく、古人の事跡をみて、さても及ばぬといふ様なる心ならば戦に臨みて逃るより猶卑怯なり」と申されてゐる通りであります。われわれが習字を勉強するのに有名な書家の手本はさても及ばぬと云つてお隣の魚屋のおぢさん的手本で習字を勉強する云つたらおかしいではあります。特に精神の問題に於ては先哲をめざしても漸く普通の域までしか到ることが出来ません。いはんやはぢめから平凡人をめざしてゐては到底、平凡人になるところへ出来ません。

この間、文部省へ平出大佐がお見えになりまして、大東亞戰争に於ける海軍の大戰果のかげにかくれた、いろいろ

海軍のそれまでに至る準備についてお話をありましたが、その中に海軍の長年月にわたる猛訓練のお話がありました。その内容は或は機密にわたる點もあらうと存ぜられましたので、こゝでお傳へいたしませんが、さもかく急降下爆撃の猛訓練だけでも凄いものであります。こんな猛訓練は外國人にはとても出来ないといふことでありました。又大分以前のこと、あまりの猛訓練に、遂に相當の犠牲のあつたことがありました時、駐日フランス武官が我が海軍當局へ見舞に來られて「ほんとにお氣の毒なことで御座いました」と申された後、「實を申せば、お祝ひ致したい位である。なぜならばこれこそ日本の強い立派な證據であります。若しフランスでこれに近い猛訓練なしようものなら、議會の問題になる。人民の海軍攻撃の聲が涌き立つ、又海軍を志望するものがなくなつてしまふにきまつてゐます。」ところが日本の方々は一致して皇國のためを念じて居り、従つて犠牲になつた人々に對しては心から哀悼せられても、かかる猛訓練、生命懸けの努力を感謝の心で眺めてるられるからであります」云々はれたこのことではあります。

日本人がかかる猛訓練に堪へてゆくといふことは、勿論大稟威の致すところであります。然し、また考へて見ますと、この盡忠の赤心を貫き通すこの出來る土臺を、吾々は傳統的に培つて來てもゐたのであります。しかしこの大

切な素質は從來の歐米思想によつて次第に棄てられてきまして、今やまさに消滅しきつくなつて、この大東亜戰争によつて漸くまたその價値を再發見せられる様になつたものであります。

即ちそれが辛苦の教育であります。古い傳統の生活の中に残つてゐるものを見ればわかるのであります。即ち學校では甘やかされ、のんびりと教育せられつゝある間に、丁稚とか徒弟とかいふ職業教育をうけてゐるものは昔乍ら朝早くから夜おそくまで極めて厳格な躰のもとに訓練せられてゐたのであります。或は能や歌舞伎の子役の教育を調べてもわかりますが、凡てが同じ精神であります。更にすゝんで中世に於ける武士の教育、僧堂の小僧の教育を見れば、それが如何に厳格な鍛錬主義の教育であつたかをわかるのであります。

尙、一步さかのぼれば、これは具案的な教育ではありませんけれども、吾々の農民が今も昔も捲まず撫まず、人間の力でさうにもならない自然の諸影響に翻ひつゝ刻苦勉勵して祖先傳來の田畠を守り育てゝ行く生活は、そのまゝに辛苦の教育になつてゐるのであります。そしてこの精神、この生活態度が鍛錬の教育を産み出す有力な下地になつてゐるとも云へるであります。

かかる傳統を持つてゐる我國なればこそ、現下の大戰爭

に於て驚異的大戰果をあげる事が出來たのであります。わたくし共は近代の我國の學校の普及と共に所謂封建的な遺習をして棄て去らうとしたかゝる辛苦の教育といふものについて今や新しい意義をもつて見なほさねばならぬこになつたと思ふのであります。

以上の様な意味に於て三つ子の魂百までいふ幼兒教育に於てもこの鍛錬といふ事を考へていただきたいと思ひます。

しかし大切なことはこの鍛錬においても、はきちがひや行過ぎはいけないのであります。また幼兒の事でありますから特に十分なる研究と準備と計畫が必要であります。ある幼稚園で鍛錬と稱して風の吹く日に幼兒を遠足につれだしてかへつてきます。園児の口の中には砂がはいつており、中には發熱したものさへあつたといふ事をききましたが、これなきは準備も足らず計畫もなく、只幼少なものに突然無理をさせたといふことで、決して保育でも教育でもありません。

幼兒は將來 陛下のお役に立つ大切な國の寶であります。大東亞共榮圈の建設も、今の幼兒がやつてくれるものと考へねばなりません。それであるからこそ前に述べました東郷元帥のお母様の様にその枕上をあるかないで足もさをあるく位に大切にするのであります。しかしまだそれで

あるからこそ橋本景岳先生のお母様の様に棒切れで折檻するのであります。養護も鍛錬も、この根本から出れば間違ひはありません。皆さんはそれぐる必要な教育をうけられ幼兒の保育に御經驗のある方ばかりであります。具體的な工夫はそれぐるこの根本さへつかまへられば十分おできになる事存じますので鍛錬についてはこれで終ります。

(六) 幼稚園、保育所の社會教育的機能發揮について

吉田松陰先生の有名な松下村塾は、その存在によつてその附近の村の風儀を改めさせて立派なものにしたいふことはあまりにも知られています。たゞへば松下村塾の年少者が煙草を吸ふので先生が戒められた。するとこれを見た村塾の弟子は皆煙草をやめる。これを聞き傳へて附近の村の青年達がみんな煙草を吸ふのをやめてしまつたのであります。

學校の存在も、左様にあつてほしいと思ふのであります。學校ができるまでは、村の青年が學生の眞似をして風儀がわるくなつて困りますといふ様な事になつては大變であります。さう云ふ意味におきまして幼稚園、保育所があるところでは、附近の家庭の幼兒保育が美事にならなくてはなりません

ん。幼稚園や保育所はそれだけで附近から遊離してしまつてはその力が十分とは申されません。幼稚園、保育所における間だけではなく、家庭へかへつてからも立派な保育が行はれる様に心をくばついていたゞきたいのであります。すゝんでは幼稚園や保育所に來ない幼児についても美事な保育が行はれる様にありたいのであります。

尙ここれに關聯して申上げたいことは田舎では田舎らしい保育をやつていたゞきたいといふこゝであります。現代は何ごとも都會模倣が流行しておりますので教育もまた都會模倣が多いのであります。わたくし共各府縣の學校を視察してあるきますが、一ぱん感ずることは田舎ではその附近の環境にびつたりあつた田舎らしい教育が何故行はれないのであらうといふこゝであります。みんな都會の學校、それも東京の學校の模倣がみられるのであります。田舎では田舎にある材料で何とかなるのであります。田舎は、教育に一番大切な自然にかこまれてゐるのですから、都會より却つて恵まれてゐることも申せます。

又、すべてのこゝに對して、かよつにしてこそ、田舎では村の人さのつながりもよくついて行くのであります。さうぞさういふ點にも御注意願ひたいのであります。

これらの先生達の魂は今、大阪城のほこりに立派な教育塔がたれ、その中に祭られてあります。誠に有難いことであります。

皆さんのお仕事は、まことに大切な、しかも意義深いものであります。さうぞ、この尊いお仕事は萬一の場合には死をもつてやり上げていたゞきたいこ念願いたす次第であります。(終)

これからは戰線も銃後も區別がないのでありますからお互にその覺悟で働くこゝが當然であります。今後、時局の進展につれてまた空襲があるこゝも覺悟いたさねばなりません。

空襲に際して幼児を如何にすべきかは、それぐ一十分の御用意があるこゝへ信じますが、平常から計畫をして、準備をしておくこゝが必要であります。

只、わたくしが最後にお願ひいたしておくこゝは萬一の場合には決して見苦しい態度をもつて下さるなさいふこゝであります。わたくしは大阪に居りました際、學校を視察いたしますと、よく校長さんが校庭の隅にある墓標の前に案内されることがありました。これは先年近畿に大風水害がありました際、校舎がたほれ、先生が生徒を救はうさして、生徒をかばひ乍ら壓死をされたその記念の墓標であつたのです。

これらの先生達の魂は今、大阪城のほこりに立派な教育塔がたれ、その中に祭られてあります。誠に有難いことであります。

皆さんのお仕事は、まことに大切な、しかも意義深いものであります。さうぞ、この尊いお仕事は萬一の場合には死をもつてやり上げていたゞきたいこ念願いたす次第であります。(終)

(七) 空襲時の注意

幼兒の積極的保健（二）

愛育會保健部長 齋 藤 文 雄

第四 納養 納養の事も皆さんが既にきいて居られると思ひますが、納養として最も大切なのは何かといふ納養學の立場から見た幼兒の食物は十分御承知下さいますが、最も大切な點は食物の與へ方にあります。納養學的に扱つて例へば量の問題でも幼兒は體重一公斤當り一〇〇—八〇カロリーが必要であります。之は量の問題であります、單にカロリーだけでは駄目で、食物の質、即ち種類の問題があります。量と質は常に子供の食物に考へねばなりません事は御承知の通りであります。今日はより大切な事、即ち與へ方をさりあげたいと思ひます。

戰時下で食物も不足勝ちですが、これが幼兒に如何に影響してゐるか、これについて委しく云ふ自由を持ちませんが、この前の大戰のドイツの例を取るに、ドイツはあれ程いためられてゐて、幼兒の健康の上にどんな影響をもたらしたかと云ふに、影響は戰後三年目にあらはれ幼兒の發育が悪くなつて居ります。我國では支那事變より三年目、四

年目にも影響はなく、昨年の暮あたりから幼兒の發育の上に影響が見られるであります。然し戰争による幼兒の發育障礙は一時的なものであり、後で食物を與へればすぐに恢復するといふ事は、ドイツの學者の一致した發表であります。理想的に云へば幼兒の食物位さうにかして十分に云へるが今日間に合はぬとすればそれも耐へなければならぬ事であります。この他ドイツでは浸出性體質の子供がかへつて戰爭が始まつてからよい體質を示して居ります。我國では食物不足と云ひ乍ら量の上で必要以上食べて居ります。その結果お腹をこはすといふ事になります。これは食べさせ方に問題があるので、絶えず何か食べてゐるといふ悪い習慣の爲に却つて瘦せて病氣を起して居ります。ある農村で幼兒が一日何回食物を攝るかを調査した所、平均三歳から五歳の子供は一日十一回食物を三つてゐた。つまり一時間毎に食べてゐる事になります。間食が多いと主食を十分に食べなくなります。間食は主に含水炭素の多い

ものが之に當つて居ります。(おこし、おいも、お菓子、たうもろこしなぎ) 主食をたべてこそ間食では得られない蛋白質、ビタミン、礦物質が得られますが間食が多いと自然これが不足し、又胃袋の負擔も容易であります。今日母親にこつて幼児の栄養上大切な事は食べさせ方をきちんとしておる事にあります。強壯剤や醫者に頼りながら家に於てでたらめな食べさせ方をして居ては駄目であります。食物を通して子供の健康をはかる位簡単な事はありません。よく指導して頂きます。

第五 疾病豫防 これは勿論大切な事であります。一體幼児が毎年多く失はれて居りますが、最近の統計昭和十三年の數字によりますと、乳幼児死亡數約四十萬人中、乳児が二十三萬人、一年から五年までの幼児の死亡數は十七萬人であります。今年の七月七日は事變五周年記念日であります。ましたがこの五年間の英靈は十一萬千百十一柱であります。一年に約一萬でありますのに、乳児だけでも一年に二十三萬で比較にならぬ程こくなつて居るのであります。幼児は如何なる病氣で死んでゐるかと云ふと、下痢、腸炎、赤痢、疫瘡、脳膜炎、肺炎の順であります。一番多いのが下痢及び腸炎でお腹の病氣で死ぬのが多いのであります。次も同じお腹の病氣ですが之は傳染するものであります。

腹の病氣、消化器系統の病氣でありますから親が子のお腹

を弱くしてゐると言ふ斷言出來るのであります。今日死亡低減の目的、保健増進策の一つとして食物の與へ方はさうしても母親に徹底させなければなりません。次の脳膜炎は必ずしも脳膜炎でなかつた子供も入つてゐるかも知れません。何といつても幼児の疾病豫防としてはお腹の病氣の豫防が大きな問題であります。この他傳染病の數々があります。幼兒期即ち傳染病経過時代といふ位いろいろあります。水痘、耳下腺炎、麻疹、百日咳、この後二つは命さりであり傳染力が強く、百日咳の如きは始め家庭で要心しない時期が最も傳染し易いのであります。百日咳を早く判別する事が大切な事であります。この見當のつけ方を申上げる。1、初期即ちカタル期はいはゆる内にひく咳をしないで風邪ひきと同様である。たゞ氣を付けるのは咳が寝つき分明け方に多く出る事を母親にきく事である。

2、咳が次第に多くなる。

3、咳の時少し顔があかくなる。

4、その中に朝まぶたがはればつたくなる。これも母親にきく。

5、咳がつづけて出る。咳の時吐く。内へひかなくても咳の後で唾が口の端に出る。

6、子供は咳がざんざんに出ても痰を出さぬものであるが、百日咳に限つて痰を出す。

百日咳の早期診断は以上の事であります。

麻疹は傳染の時期があります。正月から始り四、五月頃まであり、大きな流行は大體一年おきに來るのであります。

1.はじめはたゞ咳が出る。

2.潜伏期を終へて顔付きがぼんやりし、むくみ、まぶたが腫れる。この時分は氣嫌が悪くなる。

3.熱がちよいしく出る。

4.口中の内側に白い斑點(まほりに赤い粘膜)が出來、この翌々日頃には發疹する。

この様な病氣も一度は経過しなければならない病氣が多いので、むしろかけてしまふ方がよいと云へますが、こゝで問題になるのは結核であります。これのある子供がかかると、殊に麻疹などでは必ず後に結核が頭を擡げます。丈夫な子供なら麻疹にかけてもよいが、反應が陽性に出る子

は感染したと思はれる時から少くも二ヶ月は麻疹にかけてはなりません。それには血清又は血液の豫防注射をすればよいので、結核に感染してゐる子は絶対に之をしなければなりません。豫防注射のきめは流行の時期にしてこそきめがあります。百日咳の注射は半年しか有效でありますから、一年に三回すれば充分であります。

デフテリーの豫防注射は割合によくきります。入園當初

しておけば幼稚園を出るまでは效果が充分であります。その他チアス、猩紅熱の多い地方ならそれをするのであります。赤痢、疫痢は注射が難しいのですが、近年よい注射が出来ました。

豫防は消極的思考へられます。三週間病氣をして後、

發病前の状態に戻すには一ヶ月以上かかり、そのプラスで行くべきものがマイナスで行くのですから二倍の損失あります。故に豫防は消極的の様ですがさうではなくて積極的に行くの、二倍の効果をねらつて居るのであります。日本校醫や幼稚園の醫者は割合積極的に出てくれる人が少い様ですが、これからはそれではいけません。或る人にきります、豫算が年に六圓しかないからと云ふのもありました。然し今日きの方面でも、國家の發展を考へる上には犠牲といふ事が必要であります。お互に協力しなければなりません。

只今申上げたこれ等を根據として積極的保健政策を實行し、體力の增强を目指すのであります。當分の間は體力測定は醫者が保健婦しか出來ませんが、背筋力、牽引力、肺活量、走、投を以て體力を測るのであります。體力が個人々々にはつきり分つてこそ伸ばし得るのであります。體力鍛成も全體一樣では積極的保健になりません。この點ヒックラーユーティリティのやり方は合理的であります。それは如

何いふに、先づ一様に身體検査を必要あるものには豫防注射を施し、次に體力検査を行ひ優、普通、下三分けてしまひます。優れたものは體操の時だけ上の級と一緒にやり、下のものは普通より程度を下げて行ひます。これは合理的な方法としてござりあげられてよいと思ひます。

體力増進は現在の子供のあるがまゝの體力を馳驅して行くだけで積極性が得られるでせうか。現在の子供の體力に加へるX、或る程度の強力をひきづゝても加へる必要がありますが、この加へるものに強力者と弱體者では違ひがあります。始めに根據を擱んでおいて、適當な手加減が必要であります。順を逐うて加へて行くと、子供は本當の體力を増して行く事が出來ます。現在の體力検査はもつゞ積極的でなければならないと思ひます。

今日我々が保健といふ問題を考へる時、文部省令を待つ、またもなく國家的に考へても、今日の我々には保健なしに教育なし云つてもいい位大きな問題であります。教育は主として文化的方面、精神的方面を扱つて來ましたが、健全なる精神は健全なる身體に宿るといふ如く、根底には健全なる身體がなければなりません。眞の教育はこゝになさるべきものであります。

今日では自分は國語の先生だ、何の先生だ云つてゐら

れる時代でなく、自分の専門の文化を通じて綜合的に子供の保健に働いて行かねばなりません。自分が専門にして來た事を語るのは誰でも簡単であります。他の部門の事でも國家が要求するから話せといはれれば勉強しても話さなければなりません。こゝを考へて頂きたいと思ひます。

吾國では農林省には技師がゐて牛や馬の保健を考へますが、今日迄大和民族の保健については不思議な位考へられなかつたのであります。これからは自分の分野それゝにて、子供の保健といふ問題に積極的に働かなければなりません。新しい分野をひらく事は苦しい事ですが今日國家がそれを求めるのでありますから、たゞひ狭くとも新しい分野をひらかなければなりません。或る女學校の先生の話に、保健について自分のたてる計畫を上席の人人がひやかすので情なくなるといふ事でした。之は今までの教育者の立場で、自分の分野だけですんでゐた時代の事であります。勇氣をふるつて自分の分野の範圍に於て皆が保健問題を取り上げなければなりません。

昨年小兒保健報國會が生れ、全國的にひろがりつゝありますが、この會員は無報酬で奉仕するのでありますから、これの連絡を取つて頂き度いと思ひます。

幼児一人々々がこの日本を背負つて居るこ考へれば、將來若いものにそしりを受けない様に吾々は立派な體力を作つてやる義務があります。醫者だけにまかせられず、國家の爲に各々が御奉公の一端をつゞめて頂く事を希望致す所第であります。(以上)

現時局下に於ける幼兒保育 (二)

倉橋惣三

第二 建設性の教育

戰ふと共に建設が本務である現時局に於て、將來の國民が最も充實せる建設の性格をもたねばならぬことはいふまでもありません。耐久性は建設の時にむしろ一層大切であります。

所謂、ちきにくたばらぬ、參らぬことは、戰に於て大切であります。同時に、相手が力で此方の力にぶつかつて來ない建設の時に、特に必要であるといへます。

建設性とは如何なる所に特色があり、幼兒に於てどこに養へるか考へてみませう。簡単にいへば、建設性は破壊性の反対であります。子供の中に破壊性があれば、これを訂正してゆくことも必要であります。殊に本能は破壊的方面にあらはれるのも稀ではないのであります。本能は本來は建設的な事が多いのですが、蜘蛛や蟻が巣をつくるのを見ると何と建設的な本能であります。しかし、本能の生活

は、その建設をさせてゆく中心がやはり本能でありますから、本能の自然性に基いて途中でやめてしまふことも免かれ得ないことであります。そこで本能にのみ信頼して建設性を養ふ事が出來ません。さう考へるに本能的耐久を意志的耐久にうつさねばならぬといふ先程の論法にならべるに、目的が建設の中心になるといへるのであります。建設は本能的にもやれるし、また本能的に樂しいことはあります。積木を積んでゆくのも本能がさせる。さうしてさうする事が事として面白いのであります。しかし本能にまるなるならば、嫌になつたら何時でもやめることがあります。他にざんくうつることであります。積木をしてゐる中に、積木を投げる亂棒な遊びに迷るのはその一例であります。即ち目的が入つてゐないのであります。勿論、目的といふものには二つの意味があります。作つてさうするといふ事もそれであります。私のいふのはそれではなく、今この生活は何を目當に集中してゐるかといふことに用ひるので

あります。前の意味の目的は、私の用ひてるる言葉で效果意識といふ言葉にあてはまります。こゝでいふのは積木遊びの教育的效果ではなく、門をつくる、家をつくるといふ事であります。

目的とは一つの縦の系列であります。幾つかの途中目的があります。子供の前にさゝまで系列の目的を先に置くかは難しい問題であります。途中までの目的が立つて次の目的が立つのであつて、先づ下闇を以てにして、名古屋によらうとか、大阪によらうとか途中目的を追ふ事は子供には出来ないのであります。積木でいふと、先づ門をつくつた、それではお家もつくりませうといふやうに、目的の發展であります。子供に目的系列の完成を期する事は出来ませんが、名古屋まで目的でゆくか、たゞふら／＼こ散步でゆくか、これは大きな問題であります。子供の生活を、いつでも目的へむかつて引きつけられた生活に導びくことが大切であります。

心理的にいふと目的いろいろあります。門をつくるといふのを漠然たる目的、抽象目的といひます。又、心像が先にあつて、これをつくるといふのであるのもあります。その形まで先に出来るといふのは、餘程特別な型のあら子供ですが、こにかく門を作るか橋をつくるかそこはは

つきりしてゐなければなりません。そこはかとなく並べ居れば門となりけり(笑聲)といふのではないのであります。私共が、誘導保育といふことをしきりに申しますが、誘導保育といふ言葉は保育の仕方からつけた言葉ですが、これを受ける方からいへば目的保育であります。常に生活活動がそこへ指し示されてゐるのです。手技の場合にこれが最もよく出ます。泥をこねてゐたら、苔になつた、大砲の彈になつた、これも小さい子供の生活活動として否定出來ないこゝであります。しかし苔をつくりませうねといつて作る、これは目的へ子供の生活活動を向けてゐるのであります。粘土を與へて何でも作りなさいといふのは、豊富な生活活動に、想像力にまかせてゐる點では價値があります。しかしこの場合、子供が何もつくれない場合もあるであります。自發想像力をうながすといふ事であるが、つくらなくても仕方がない、それつきりの話であります。するさうでもないお話を出て来る「皆さん、作る子を作らない子」とちらがよい子でせう(笑聲)なさゝいひ出す先生がある。また「さうして作らないの。あなたが作らない」と先生泣きたくなるわよ等といふ泣き落しもある。(笑聲)子供は何かを作らんと欲し、しかもしまひまで何もつくれない子があります。又しまひになつて、ちょこ／＼こまごめる癖がつく。さういふ癖がつくるをさういふ癖がつくるのであ

ります。(笑聲)創作活動の豊かでないものに課題が與へられるご勞働的活動になるが、反対の場合は創作活動を目的に向つて動かすこになります。そこで子供の場合、確かに子供がこれをしたいと見當がついてる場合——この見當がつかないといふのはあまりに気がきかない——、自發の自由を與へる。先生が子供のつくりたがつてゐるあれを知つてて、「あれをつくりたいのでせう。ぢやそれをおつくりなさい。此方から作りなさい」といふ課題になりますからいひませんよ」いふのはよろしいのであります。が、自發の美名にかられて先生が目的を持たないままぐれ保育をしてはなりません。

苺をつくりませうといつて作つてゐる中に、「先生、これは大砲のたまよ」などとくることがあります。その時、先生は何といひませうか。自己責任感からいへば、苺をつくれといつたのに大砲の弾をつくるとは何事か、切腹に價するといふわけですが、この時局に苺などをいふ時には、大砲の弾でもいゝではありませんか、何の權威あつて苺を強ひますか。たゞ果物店をつくるので苺をつくるのは目的の必然性があります。かういふ時、弾丸をつくつたのでは困りますが。

ある目的へ向つて、自己の生活活動を集中するところが建

設であります。今、日本では自己の興味、自己の必要で動いてゐる人はない、何一つといへども皆建設であります。この、目的に向つて集中してゆく、こゝに建設性的の根據があるのですから、勿論お互の腕前でこの目的の生活活動が二つに分けられないこことがあります。子供は目的、手段といふ分化ではなく、生活活動の純一性で出来ます。これを理解しなければならぬ。先生が「苺ですか」いふ子供は何をつくらうと思はないじやないが、苺をつくらうとしてる事がはつきりしてきたといふ事になる。先生の力で目的を抜き出してくるといふのは保育の技巧でありますが、やはり生活を目的に集中してゆくといふ一つの方向を辿つてゐるわけであります。今日では目的へ向つて工夫するのが建設性で、工夫力そのものゝ面白さ、奇抜さで終らせては意味がないのであります。思考力があつても建設の出来ぬ人間は時局下役に立たぬのであります。普段なら、伸びるまゝに伸びてよいが、現時局下においてはこの方面が工夫されねばならなりません。觀察が、その物自體の觀察でなくさり入れる事もふくむ。ながめる事だけでなく作ることも育てることも觀察であります。しかしこゝではもう一步すゝめて目的に向つて生活しつゝ觀察する、こゝに意義がある。漠然觀察、目的觀察、こゝに意義があるのであります。「皆さん、竹はどんな性質のもの

でせうか」といふと、子供等はいろいろ答へる。各方面に展開していひます。それを先生がまさめてゆく、これも觀察であります。竹を使つて手技をする、その創作活動に於て竹を觀察する。こゝでは皮を中心にしてまげるか外にしてまげるかといふ問題である。竹の使用觀察であります。子供に水鉄砲をつくつてやるのに、穴を開けるところで皆失敗してしまふ先生がある。これは竹の強い纖維にいきなり穴を開けようとするから無理なので、先に細く切込みを入れてやれば何でもないのです。即ち目的へ向つての觀察をしますから、製作に必要な事柄に於て觀察が出来る。目的に向つて建設するのであります。今、南方へ澤山いつて居りますが、何が目的で南へ行くのか。南へ行つたら何かあるだらうで地面を杖で叩いて歩いてみてもわかりません。こゝにはきつき石油がある、石炭が出ねばならぬ筈だといふはつきりした目的をもつていつてこそはじめて成功するのであります。建設は目的をもつてはじめて完成するのであります。誘導保育は心的效果からいへば目的保育であるといふことを、こゝに再び繰返して申上げねばならぬといふ氣持が致すのであります。

建設性の教育をする時にかかる導き方をするのであります。これでも小さい子供のすることが一々まいまりのついた建設になることはいへません。それを一々やかましくい

ふことを出来ません。そこで一つの問題は、子供が十分建設的に活動してゐるのを手傳つてゆくのであります。この手傳ひ方に二つあります。一つはその出来築をよくしてやる爲に手傳つてゐる。勿論この中で自ら子供に發明せしむるところもある。二は、出来築を狙はぬが、子供が如何にもうまくやらないので手を借してやるといふのであります。子供は助力されるこゝによって發明するこゝがありますからこれも決して無價値ではありません。

大人とは子供よりうまいものであることはきまつてゐます。けれども子供よりうまいのみではなく、建設性の多いのが大人であります。この豊かな建設性で手傳ひるのである。先生が建設へ手傳つてやるこゝ子供は、「こんなにうまくゆかない」と思つてゐたのにあゝうれしい。私のかねて希つた通りにして下さつた。また私の氣のつかなかつたことを出して下さつた」と思ふ。やがてその子供に建設性そのものゝ教育が與へられてゆくのであります。我々はさういふ意味に於て、手を借してやるのも必要だと思ひます。ちぐはぐなものを建設にまで仕上げてゆくといふ先生でなければなりません。その人が出来るものになつてゆくといふ先生でなければならぬことを思ふのであります。

一方に大きな戦をつゞけてゆき、しかもその間にも非常

に大がかりな建設をしてゆくことが、所謂現時局の本質です。それに適應する教育として耐久性及び建設性これが主なる問題である事は申し盡しました。即ち我々はかかる目的を以て、あの児童の将来に期待するのであります。本當の耐久性、建設性が性格の中にしつかり出来るその基を幼い時に啓培し、培ひ養つておきたいといふのであります。ところで所謂耐久性、建設性、言葉が大層むづかしい。しかしそれは子供の生活にあらはれる時は、そんなしきりめらしい形をさるとは限りません。耐久性の耐はこれらであります。これは大變きつい事である、久はそこに或る時間をおくのでむしろゆつたりした意味にもなります。子供を強く育てる意味に於て、從來家庭や幼稚園でよくなるることは思ひますが、お前は強い／＼といふ言ひ方があります。さうする子供は歯をくひしばり、拳を握り所謂我慢するのであります。殊に所謂痛い／＼といふをする時はさういふ仕向け方をします。我慢／＼といふことは戦争、建設に必要なこといふまでもありません。しかしこの我慢することは、今の苦しさに耐へる事ですがこゝにいふ耐久性はそれのみでなく、もつゞゆうりのある生活の仕方をいひます。中には大變我慢強いが、後ではぐつたりする人があります。もう一寸だよ、いふ一寸だよにつられて我慢してゐるのがあります。しかしこゝでいふのは、その強さを以

て久しきに耐へることであります。その強さはさう強くなきも久しきに耐へる方がもつゞ大切かもしません。その意味で耐久性を養ふには子供をしてちきに行きつまらせぬ、すぐにやめないといふ事が大切であります。力を出さないですぐやめるのもありますが、は一つゞ力んでもすぐやめてしまふのは、力んだゝけはえらいが、やはりすぐやめるのであります。大人にもさういふ人があります。全力を盡した、だから後は何もない（笑聲）といふのがある。これでは久しきに耐へる道ではありません。終始ゆきつまらない、ゆうりをもつてゐる、すぐに投げ出さない、すぐに捨てない、この生活が必要であります。その位瞬間に力を入れたとしてもほうり出してしまはない、一度力を抜いても投げ出さず他に道がなからうかといふのであります。これは他からみるご懲長であります。最後はかくてこそ建設も出来るのだと思ふのであります。

日本人自身反省してゐる一つの缺陷は、刹那的に力を出しがじり／＼やる耐久性がない、いふことであります。子供が何かやつてゐる氣がつくことは、殊に熱心な子供程耐久性がないといふ事であります。一寸躊躇くゞすぐほうり出す。そこで先生の指導法は、絶えず子供に力を出させる事は必要だが、なげ出しをさうになる一寸前に——投げ出した後では駄目だし、すつゞ前の必要もない。——一寸お

預けしておきませう、何も今しなくても後でしたらよい。一寸ゆきりを與へることは、生活に一つのよいゆきりを與へることであります。やり出したらしまひまでやれ、といふ言葉は全般的には正しいのですが、一氣呵成にやれといふ意味に誤りさられるところはない。幼い子供は、一氣呵成にやる事が多く、先生の中にも一氣呵成の方が多くいらっしゃるでせう。教育自體もまあく、このばしておくゆづくりしたやり方が少いのです。若い人は一氣呵成的であります。するま、子供は力を出す方は養はれます、突き當つてかうゆく道もあらうかといふやうな事は経験されません。殊に東京の幼稚園は江戸つ子保育(笑聲)の名でこれがおこりやすいのであります。お年寄になるま、まあいゝで、すけてしまふ、これはどこがいけないのか。力を出させずに援けてしまふことが非教育的なのです。うか、待つといふその教育が出来るかうか、大切なのであります。ぢき行きづまらない性質は大人にも大切であります。ぢき投げ出す人が多くなつては、長期建設は出来ません。今日の戦争は一氣呵成ではいけません。ソ聯の戦を見る事實にはがゆい。冬越し、かなり退却もしてゐるのであります。まごろつこしいが、彼等はぢき待つてゐることが出来るのであります。

子供を見て、この傾向のある子、足りぬ子を見判け、

この傾向を養ひたいものであります。建設といふのははつまりそれである。何とかして建設しなければならないのです。この氣持は一つやり方で行きつまつた事を、他のやり方もあるかもしけぬと思ふ行き方であります。これを我々の言葉で「よく考へてごらんなさい」といひます。

例へば、手技で彌次郎兵衛を作る、あゝ面倒くさいとすてる子供もあるかもしれません。さういふ時、出来上るまではそこ動くなといふ工合に、「よく考へてごらんなさい」、さそこの子を入れておいて、時々「さうか、出来たか」さ先生がのぞいてみる。(笑聲)これはやはり始終おひつめられてゐて、ゆきりではありません。これに對して、彌次郎兵衛が今日出來なくとも、明日出來ればいいぢやないかといふゆきりを持つのであります。そして一度やめるのであります。しかし何時か出來るだらうといふなげやりではない、この場合、明日は必ずしめうと約束して先生はほうつておいてはなりません。明日必ずしなければならない。(笑聲)そして子供は明日、そんなに追ひつめられた氣持でなくやれるのであります。私のいふのはこれを狙ふであります。歯をくびしばる耐久性、建設性の話ではありません。しかも悠々閑々でもない、如何にしてかういふ性格が養はれるか考へてみませう。

先に、建設は目的に向つて一切の生活をつけてゆくのだ

ご申しました。しかも子供は大人の程、目的が先に分離してゐるのではない、途中で見出される事が多いご申しました。今日のは更に発展するのであります。目的は見失つてはならないが、自分の距離を相當におけるのであります。「そろくご参らうご存する」ごお能でやりますが、この歩き方は夏やるご汗も出ないでいゝご思ふ。(笑聲)この「そろくご参らうご存する」ごいふのは非常に目的に則してゐます。

これは、従来保育でいはれる自發ごんの關係にあるでせうか。自發とは此方から出てゆく生活であります。他發、他律、他動ではないのであります。しかし目的を自分ものにしてゐるところに自發があり得るので、自發が單なる彈力的活動であることは限りません。その目的に向つてゆるりく歩む事、落著いた自發ご申しませうか、焦らぬ自發、興奮せぬ自發、反動的力の發動でない自發ご申しませうか、自發は興奮、思ひつき、或は反動的になりやすいものであります。これでは決して建設性にはなりません。自發は決して捨てませんが、自發の勇しさ、勢よさだけでこれを解釋してはなりません。従来の心理學的言葉では根氣ご申しました。根氣とはもちつゞく力そのものでありますから、さうしても生活が續いて居ります。でありますか

ら一應中斷しても續くごいふ耐久性ご必しも一様ではないのであります。

おしまひのないのが現時局であります。済んだら休むごいふ事のない時には、中へ中へご休みを入れてゆかねばなりません。中斷してそれでも目的を失はないごいふのは、これは根氣とは少し違ふのであります。これを耐久性ご申したのであります。これも亦大切な性格でありますから、これを子供には非養ひたいご思ふのであります。

萬葉に於て日本の感情を見る (九)

東京女子高等師範學校教授 石井庄司

七 稽古照今

「丈夫の弓ゑゑ振り起し射つる矢を後見む人は語り繼ぐがね」
詠んだ萬葉の武人たちは、後世への顧慮、未來に傳はる自己の名に對して非常な注意を拂つて居ります。萬葉人は將來のことに就いて異常な關心を持つてゐたといえます。

しかしそれ同時に、萬葉人はまた自己の祖先をふりかへり、いはゆる報本反始といふ考も強かつたのであります。いつも自己及び國家の原初に恩を寄せるいふのが萬葉人の特色であつたと考へられます。中でも柿本人麿は最も強くさういふ考へ方をしてゐた人のやうであります。

萬葉集卷一の初の方に、人麿が近江の荒れたる都を過ぎて詠んだ長歌があります。此の歌は、持統天皇の御代の歌で、人麿が天智天皇の都せられた近江國の大津宮の跡に就いて實際に見たところを述べたものであります。そこが人麿は、まづ初めに「玉だすき畳火の山の櫻原のひじりの

御代の……」といつた具合に、畏くも神武天皇の御代のこから説き起して、代々の天皇が大和に都せられたことを歌ひます。それであるのを天智天皇の御代になつて、都をささなみの大津の宮にお遷しになつた云々を申して居ります。天智天皇の御代の事績を述べるのに、神武天皇の御代の事から説き起すのであります。

また人麿が日並皇子の御事を歌ふに及んでは、「天地の初めの時のひさかたの天の河原に、八百萬千萬神の神集ひ集ひいまして、神はかりはかりし時に」といつて、擊國のこゝ、また天孫降臨のことを詠んで居ります。即ち持統天皇の御代の事を歌ふのに、神代の昔のこから説き起すといふ遠大なやり方であります。人麿の長歌には、特にこの懷古の言葉が多いのであります。以て、人麿といふ人は、如何なる人であつたかを窺ふことができるのであります。また推しては萬葉時代の人々の一般の物の考へ方といふこそも分るのであります。

持統天皇の和銅五年には、太安萬侶によつて古事記三巻が撰修奏上されました。その奏上文の中に「古を稽へて以て風猷を既に頽れたるに繩し、今を照して以て典教を絶えむ」とするに補はすといふことなし」ござり、「稽古照今」といふことが重要な事項となつて居ります。青少年學徒に賜はりました勅語にも「古今の史實に稽へ」ミ仰せられ「稽古」といふことが示されてゐるのであります。人麿が何か物を言はうとするさきに、さうしても遠い先祖の時代の事から説き起して來なければならないといふのは、これ「稽古」であります。そして「今を照す」ことなるのであります。

かういふ例證として、私は、萬葉集卷二十にある大伴家持の「族に喻す歌」といふのを味はつてみたいと思ひます。これは長歌であります、最初に「ひさかたの天の戸開き高千穂の嶺に天降りし皇祖の神の御代より」といふ言葉があり、天孫瓊々杵尊が天の岩戸を開いて日向の高千穂の嶺に御降りになつたことから説き出して居ります。大伴氏の始祖である天の押日命は手には弓矢を持ち久米の兵士等を先鋒として、天孫の御伴をして來たのであります。そして種々の功績を擧げ、服従しない者を和らげ、不逞の者をもを掃蕩してきました。かくて天の押日命の子孫たちは、大和の櫛原宮にお仕へし、神武天皇の爲に忠勤を勵みました。なほ御歴代の天皇に赤心を盡くしてきたのであります。わ

が大伴家は、そのやうに長い歴史を持つた名家であるぞ、一族を勵ますのであります。「子孫のいや繼ぎ繼ぎに見る人の語り継ぎて、聞く人の鑒にせむを、あたらしき清きそこの名ぞ、おほろかに心思ひて虚言も祖の名断つな、大伴の氏さ名に負へる健男の伴」と言つて、この長い歌の結にしています。なほ反歌には、

敷島の倭の國に明らけき名に負ふ伴の緒こころつきめよ
劍刀 いよ研ぐべしにしへの清けく負ひて來にしその名ぞ

さいふのがあります。前の歌は、敷島の日本の國に於て、特によく人に知られてゐるよい名を保つて來た一族の人々よ、心につきめてしつかりとやらうではないかといふ意味。「敷島の倭の國に明らけき名に負ふ……」とは、何といふ自持の念に勝れた歌であります。これも、むかしからの歴史といふものをぶりかへつてみたさきの信念であります。先祖に對する大いなる信頼であります。

又、次の歌は、わが大伴氏の一族たるものは、大いに奮勵して、名聲を磨き、光輝を發揚せねばならぬ。古來潔く負ひ來つたそのありがたい名であるぞといふ意であります。こゝでも「いにしへゆ清けく負ひて」といふところが光つてゐます。尊い歴史のたまものであり、報本反始、崇祖といふ氣持であります。

なほ家持の先祖を想ふ心は、萬葉集卷十八にある陸奥國より金を出せる詔書を賀ぐ歌の中にもよく現はれて居ります。

この歌も初は「葦原の瑞穂の國を天降りしらしめしける天皇の神の命の御代重ね天の日嗣ごしらし来る君の御代御代」といふやうに、高天原から天降つて我が日本の國を御統治遊された天孫瓊々杵尊以來、御代を重ね、皇位について次々に御支配なされた御歴代の天皇云々歌つて居ります。そして今、陛下が大佛鑄造といふ善業を遊ばさるゝに就き、黄金の不足のところへ陸奥國から黄金が獻上された、その慶びを言葉を重ねてここほぎます。それにつけても我が大伴一族の遠い祖先たちは、その名をば大來目主といひ、朝廷に仕へてゐた武官の家柄でありました。「海行かば水漬く屍、山行かば草むす屍、大皇の邊にこそ死なめ、顧みはせじ」といふ言立を持ち、大丈夫たる立派な名を遠い昔から現在に至るまで、傳へてきた先祖のその子孫である我等であります。大伴氏と佐伯氏は、先祖の立てた誓言にある通り、子孫たちは先祖の名を絶やさず、大君に仕へ奉るものだと言ひ繼いでいた格別の官職でありますといつて、昔の誓言を述べます。その原文は

「人の子は祖の名絶たず、大君にまつろふもの」

といふのであります。祖先を崇めることは祖先の顯揚になります。かういふ立派な教が家持によつて傳へられてきました

のであります。

かういふ譯で、吾等子孫たるものは梓弓を手に持ち、劍太刀を腰に帶びて、朝に夕に朝廷を守り、宮門を守るものとしては、我等の外にはまたその人はあるまい、大君の此の度の詔のありがたきを承れば、一層貴く感じ、愈々家の教を押し立てて、益々奉公の決心を固める次第であります。大伴の遠つ神祖の奥津城はしるく標立て人の知るべく

は右長歌の末に添へられた反歌の中の一首であります。「我等大伴氏の遠い先祖のお墓は、はつきりと標を立てよ、世人々がよくわかるやうに」といふのが一首の意であります。「大伴の遠つ神祖」ご天の押日命や道臣命のことをさしてゐるのであります。お墓をしつかりと守るといふことは、先祖の祭祀を絶やさぬといふことは、結局その一族の繁榮繼續を示すものであります。實にはつきりと崇祖の思想を表現した作であります。

家持が先祖を思ひ、先祖傳來の家名を傷つけないやうに努めたことは非常なものであります。そのやうに祖先を思ふといふ家持の氣持は、他の場合にも出て居ります。

それは聖武天皇が吉野離宮に行幸遊さるゝ時に詠んだ作の反歌であります。

いにしへを思はすらしもわざ大君吉野の宮をあり通ひめ

があるのだと思ひます。

わが天皇が常に吉野離宮に行幸あつて、山川の勝景を御覽遊ばされるといふのも、實はいにしへに於て、此の離宮を創建遊ばされたその當時のこととなつかしくお偲びなさるこゝに拜察いたしますといふのであります。吉野離宮は遠く應神天皇の御代から歴史にも出て居り、特に持統天皇のじきは御一代の間に二十數回も行幸になつて居るのであります。そのやうに由緒の深い歴史をかへりみ給ふものかと推察申し上げて居るのであります、全く家持のもののか考へ方をよく示してゐるのであります。

この長歌にも、もう一首の反歌があります。
もののふの八十氏人も吉野河絶ゆることなく仕へつ見む

「もののふの八十氏人」は多くの官人達といふことであります。それらの人達が吉野河の絶えることのない同じやうに何時までも天皇にお仕へ申し上げて、吉野のよい景色

を見るであらうとの意で、前の歌において、遠き古に思ひをやつたと同時に、また遠き未來に心をかけるのであります。こゝに尊いところがあります。懷古は、單なる古を懷しみ、古に抱泥することではなくて、家持のこの歌のやうに遠き過去に思を寄せるこゝは、やがて遙かなる未來を望むこゝなるのであります。こゝに本當の「稽古照今」といふこ

人麿、家持を多く例證しましたが、以上のやうな「稽古照今」といふ考へ方は、萬葉人に共通のものと考へてよいと思ひます。

家持が越中守から都に上つてきましたとき左大臣橘諸兄を壽ぐために作った歌があります。いささか儀禮的のものであります、家持の心持が伺はれるやうに思ひます。

その歌といふのは次のやうなものであります。

いにしへに君の三代經て仕へけり吾が大主おほぬしは七世申さねむかし三代の天皇に歴任したものがあります。さうかなた様は七代までも永くお仕へなさいまして、政治に關係なさいますやうにといふ意味であります。「三代」と「七世」が一つの綾になつた歌で、大部技巧といふことが眼につくのであります、稽古照今の具體的な卑近な例證とも考へられるのであります。

十一月の保育

生活訓練

倉橋惣三

よう。たゞへば正月元日の如きその一例である。四方拜といふ式日としては、當然他の大節に同じであるべきであるが、正月元朝の祝ひとして、家庭各々に於て、充分心を籠めて行はれる。殊に、幼い子こそ、年を重ねる正月元朝の家庭の祝ひの一つの中心であつたりする。ゆつくり朝の家庭拜賀式に加はらせた方がいゝといふ考へ方である。がまた、それはそれとして、幼稚園でもその上に公の式をするに正しい主張もうなづかれる。たゞ、その場合、式の時間に就ては、他の式日の時と自ら異つた注意配慮もいることであらう。

生活訓練は常のこと、平生のことである。訓練のための生活といふ格別のことではなく、遊び、實際、なまのまゝの生活の間に於て、謂はゞ、いつといふこともなく、いつも、行はれてゐる訓練である。そした、われ等の主張したい生活訓練の眞義があるのである。

しかしながら、生活そのことの中に、時折り特別な生活の時間があり、場がある。そつした時にも素よりその生活訓練は忘れられではならないし、恐らく、或る特別な訓練の機會が與へられるであらう。その一つが、式の日の訓練である。

お正月といつた、最も家庭的な日は兎も角くも、一體に國の式日は、幼稚園でも公の式を擧ぐべきことといふまでもない。それが學校といつよである場合、獨立である場合の別は、それ／＼の幼稚園の事情によつて異なるであらう。幼稚園は幼稚園らしくといふのも一つの主張であるし、式のことであるから全校いつよに専ら嚴肅にといふのも一つの主張である。

ところで、斯うしたその幼稚園々々々の主張には茲では觸れないとして、苟も式である以上、共通の訓練の存在することを考へて見たい。

その第一は最肅感といふことである。幼稚園に平生は、必ずしも嚴肅といふことが主になつてゐるものでもない。或は快活に寛満に、樂しく面白い世界である。勿論そつした中に、きまり／＼は守られもし要求されもするが、終始嚴肅を持しつゝけるといふものではない。が、式の日こそ、その平生に於て與へられない嚴

肅感の訓練が出来るのである。

殊に、皇室に對し奉る作法の如き、幼兒にも、その正しさと、つゝましさとを破らせてはならない。御賓影拜賀の場合は勿論、國歌齊唱の作法、遙拜の敬禮、一點の不作法をゆるしてはならない。それが出来ないとならば、式にしない方が却つていゝ。

第二は静肅である 言葉を發しないこと、四肢を濫りに動かさないこと、殊に失笑をしないこと、況んや騒然たらぬこと。之れは式場に入る始めから、式場を去り終るまで、守られなければならぬ。

第三は立坐の行動である 立つ時は一齊に、坐する時は一齊に、決して勝手をゆるさない。斯うした行儀作法は、平生と雖も練習せられる必要があるが、式こそその最も大切な日である。この爲には式に先立つて豫行練習をすることが必要であり、習熟させるところに、訓練の大きな效果さへある。式は必ず豫行演習をしなければならぬ。謂はゞ、それが式の式たる重んじ方にもなるのである。

第四は整頓である 之れ亦平素の訓練の中にあることであるが、式場に於て一段ときちんと行はれなければならない。行進の列、着席の列、一切亂雜をゆるしてはならない。

以上、幼兒として、むづかしい要求のようにも思はれるかも知れないが、斯くてこそ式であり、式にする訓練でもある。又、少くも二年保育からは、一通りのことは、出来るのである。

式は形であるが、その形こそ言葉でいへないもの、説明で與へ得ないものを與へ得るのである。その意味で、式こそ心もちである。形だけの形では決してない。外部の齊整ではあるが、それが實は内部の訓練になつてゐるのである。又、それだからこそ、外部の一つかの形をもゆるがせに出来ないのである。即ち式こそ、形から内への途であるが、幼兒にも分る程度に於て、その式の意味を豫めよく傳へられてゐなければならぬ。たゞ何のことだか分らない式では、眞の訓練にはなり得ない。たゞ、それだけでは出来ない訓練が、式の形となつてゐるのである。

自由遊戲

上遠文子

木々も紅葉して、あたりの自然の美しさに私達も今更の様につとめさせられます。

紅葉と子供 落葉と子供 はら／＼と散る落葉をかきあつめてマ、ゴトの御駆走に、子供達はゆく秋をまた楽しいものにしてあそびたわむれてゐます。自と自然に取まかれ又、引つけられる此頃は、落葉等での遊びに心引かれるものです。

むかで、龜の子作り。先づ百足 これは藤の葉柄の落ちたもので作ります。夏頃より風の強い日などはぼつ／＼落ちてゐますが、やはり此頃のものはすつかり枯れて作り易くなつております。作の方は左圖をごらん下さい。はじめ二本そろへます。互ひ違ひにこの様にして編んでゆきます。圖は解り易い様間を離しましたが

さうつりあて、きちんと作るとよろしい。ぐるぐる連げて長くす



互ひ違ひに、圓一杯編込みます。

始め先づ上圖の様に組立てま

す。

出来上りましたらまはりを
恰好よく切ります。

二つとも簡単な作り方で
すので年長組の方は一人で
つづつ遊ぶ事が出来ま
す。小さいもの、大きいも
の、種々作り子供達は又此
處にも想像の世界で樂しく

遊びます。

木の葉の草履 もう一つ。あぢさい、柿の葉等を用ひます。作り方は簡単で二つ折にし鉗で鼻緒の所を切込み入れ片方に切込みを入れし込めばよろしいのです。おマ、ゴト等に子供達は目先の變つた考案を喜んでくれるせう。

まゝごと 年少組でも大分おマ、ゴトも上手に遊べる様になります。

キリコミ キリコミ



ました。そろ／＼先生中心を幼児中心に移してみませう。先生より上手にやつてくれるかもしません。

夏時分、日照でお野菜に乏しかつたのに此頃はどても豊富、赤黄、緑、様々な落葉の御馳走がお膳を賑してくれます。おまゝごとも一入樂しいものになりました。

人形芝居遊び 保育案にこんな遊びがのつておりました。何よりも／＼楽しくうれしい事の一つ先生方のやつて下さる人形芝居。皆も樂屋裏へ行つて人形を引ぱり出してやつてみたくてたまりません。その人形をつかつてやつても勿論よろしいですが、誘導的に皆で道具を共同製作したら如何でせう。お人形、附屬品、

背景、皆自分達の苦心の作だつたら尙々樂しさは増す事と思ひます。お人形等は相當先生の手を加へねばならぬ事でせう。

臺詞等も各自考へたものゝ方が樂で又面白い事と思ひます。完成した曉には、○○座を開放し他の組の方をおまねきしたり、お芝居ごっこが賑かに展開されるでせう。

押くらまんじゅう 朝ちよつと冷える事があり、寒がりやさんはもう肩をすくめて寒がつてゐるかもしません。そんな人は引っぱり出して押くらまんじゅうをやりませう。

少人数ではおもしろくありませんから少くも七八人それ以上多いのは何人でも結構です多ければ多い程面白いでせう。人數に相當したあまり廣くない圓を書いておきます。その中に皆後方に兩手を組み背中を突合せにまるくなりります。立てや立てや、しやがめやしやがめで、たつたり、すわつたりするのですが、両手を組んでますから仲々自由にゆきません。自然と足でつぱり

背中で押す様になりますので、どもすると圓の外に押出されてしまひます。圓の外に足一步でも出ると、ぬかされます又、立つ時に立てなかつたりする人もぬかされます。そして次第に人數を減してゆくのです。寒がつてちぢこまつてゐた人も汗ひつしよりになつてしまひます。

輪なげ 雨がしそ～降る様な時、お部屋で輪なげはどうでせう。この輪投げは簡単な一本の柱に輪を投げ込むのです。投げ込めた數を黒板なり、紙なりに書いて點をとつとしてみませう。大きい方は距離で調節したらよろしいでせう。

幅飛び お砂場の淵からビヨンと飛んでみました。かうした體鍊遊戯も今の時代には是非と要求されてゐます。駆出してきてとんだり唯、飛んだり。先生は人々の距離をはかり出来ぬものは普通の標準の所にまで伸ばしてやる様にし、身體の鍊成と共に精神の鍊成も致し度と思ひます。この時特に注意せねばならぬ事は、何時も先生の監督のある事。砂場は石など決してない様綺麗にならしておく事であります。

落葉あつめ お庭を散歩してみると綺麗に色づけされた葉が澤山おちてゐます。特に綺麗な葉を集めてみませう。いちょう、もみぢ、つた、何ともいへぬその色にびっくりさせられます。あつめた葉はお塗がきにかいてみたり、又おし葉にしてみませう。新聞紙にはさみ、御本を少し澤山のせておくと一週間もすると美しく出来上ります。出来上つた葉はお帳面に張つておいてもよろしいでせう。秋の紅葉の美しさを保存でき何となくうれしいものであります。

もうこの頃では、全體の中に自分をおく霧園氣になれ、見てるても、隨分全體が揃つて行動出来る様になつて参ります。

遊戯の効果は、やはりある程度、正確な動作によらなければならないと思ひます。

雀の遊戯で、羽を動かす際には、両手をよく伸ばして横に舉げ

遊 戲

古 澤 静 子

おにこつこの遊戯で、松の木になるのには、兩足をしつかり踏み

しめ、肘が曲がらない様、ぐんと伸ばして、秋空を突く様に元氣よく上に擧げる等、一寸した手足の上げ下ろしにも、人々の動作は、自然で最大限度に大きく、そして正確であるように、心がけませう。

それによつて始めて、體育的效果を高めると共に、愉快な氣分を味はふ事が出来るのですから。

秋の陽光を浴びて、お遊戯室ばかりでなく、大いに戶外で、踊る事が出来たら、一層樂しさを増すことが出来ませう。

「すゞめ」 日本幼稚園協會發行、最新作曲幼稚園唱歌集所載、

隊形。一列圓形で右を向く。

「すゞめがちい／＼鳴いてゐる」。兩手を横に舉げ、羽ばたきしながら、圓周に沿つて右へ一呼間に一步づゝ歩く。

「可愛いすゞめ何處で鳴く」。羽を擴げたまゝ、スキップで圓周をゆく。

「あつちの小枝で」。兩手を下ろし、そのまま圓周に沿つて二呼

間に四歩の駆足で進む、

「ちつちつちつ」。其處に止まり上體を稍く前傾して、右(左)手を口の前で嘴の様に動かすと共に左(右)手を後に伸ばして、小雀の羽の様に動かして振る。

「こつちの小枝でちつちつちつ」。今と同じ動作を反対の方向に行ふ。鳴く時は、駆足の後、きちんと立ち止まつて動作する。

「もみぢ」 日本幼稚園協會發行、幼稚園唱歌選集所載

隊形。約二米半の間隔をおき二人向き合ふ。

「ほんのり赤いもみぢの葉」。各自拍手をしながら、兩方より同時に四呼間に四歩前進、次の四呼間で、同様拍手しながら後退する。

「もみぢの葉つばは綺麗だな」兩手を上に高く擧げ、指を開いてもみぢの葉の様に、ひら／＼させながら、各自のまわりを一廻りする。頭をおこして、綺麗な葉つばを見ながら、

「バッ」と、向き合つたまゝ、兩指をバッとひらいて兩手を前に出す。

「ひろげた」そのまま、二拍手。

「赤ちゃんの」 バッとひろげたと同じ動作。

「おてゝのようで可愛いな」 各自、上體を前傾し、始めの一呼間で右手右足(左手左足)を前出し、次の二呼間でひとつめの時、手は掌一杯に指をひらいて、もみぢの様な手の間から、相手の顔を覗くように、又足は、つま先を上げて踵をつける。この動作を左右交代で行ふ。

「おにこつこ」 日本幼稚園協會發行 唱歌選集所載

隊形。二人組み、ぢやんけんをして、鬼と逃げる者を定める。

「おつかけるよ／＼」。鬼と逃げる者は向かい、兩方拍手をしながら逃げる者は後さりし、鬼は前へ前へと追ひつめてゆく。

「おつかけ／＼鬼こつこ」。逃げる者はスキップで自由な方向へかけてゆき、鬼もスキップでそれを追ひかける。

「お庭のヒマワリ／＼まわり」。逃げる者はしゃがんで、兩手を高

く擧げ、兩掌をよせて大きなヒマワリの花を作り、鬼はそのままはりをスキップで廻る。

「そら逃げよ～」。一番のおつかけるよ～と同じ動作。

但し二番は鬼と逃げる者が交代する。

「鬼さんおいでよこうちです」。一番のおつかけ～鬼～つこ、

と同じ動作。

「お庭の松の木又廻る」。逃げてゐた者はその場に立ち止まり、

兩手を伸ばして上に擧げ、兩掌を向き合せて、高い松の木になる

鬼はその廻りをスキップで廻る。

この様に鬼と逃げる者は交代しながら繰返す。

「小鳥のおはなし」 日本幼稚園協会發行 最新作曲幼稚園唱歌集所載

二人むき合ひ、前奏、を聞く。

「小鳥と小鳥のおはなしは」。向き合つてお行儀よくしゃがみ、各自兩掌を合はせて四呼間に二回づゝ嘴の様に開閉する。小鳥の

お口を大きくあけて、二人でお話をしてるやうに。

「ちゅん／＼／＼」。立ち上り、上體を前傾して兩手を後に

びんと伸ばし、兩足を揃へて左右に二回どぶ。

「枝の上」。そのままの姿勢で、同様兩足を揃へ各自のまわりを跳んで一廻りする。

「向るのお山のてっはんに」向き合つた二人共同時に動作する。始めの四呼間で、右(左)手を伸ばしてお山を指さし、次の四呼間に下ろす。次に反対の方に同じ動作を行ふ。胸を張つて頭をおこ

し、向ふのお山を見上げる様にする。

「眞赤な木の實がなりました」。立つて向き合つたまゝ、始めの

四呼間で、兩手を横から前に持つて、兩掌を合はせ木の實を作り、次の四呼間で、その手を横に下ろす。この動作を二人同時に二回繰返して行ふ。

「甘いおいしい木の實です」。二人共そのまゝ、一呼間に一拍手し、「木の實です」の時に一呼間に二拍手づゝする。

二番 「小鳥と小鳥のお話は」、

「ちゅん／＼／＼ 枝の上」 一番と同じ動作。

「向ふの小川の川べりに」。お山を指す代りに後の小川を指さす。

即ち四呼間に一度、體を後に捻轉し、手を後に伸ばして後の川を指さし、次の四呼間で、正面をむく。次に反対の方向に同じ動作をする。これも二人同時に行ふ。

「可愛いお花が咲きました」。木の實の代りに兩掌をよせて、指を開き、綺麗なお花にする。

「うす桃色のい／＼にほひ」。一番の「甘いおいしい木の實です」と同じ動作。

「七五三」 日本幼稚園協会發行 最新作曲幼稚園唱歌集所載隊形。二人で同方向に向つて並び兩手を交叉して組む、そして全生

圓周に沿つて右を向いてならぶ。

「ボッカリボコ／＼音がする」。各自外側の足より一呼間に右足(左)、左足(右)と前に進み、次の二呼間に右(左)、左(右)、右(左)、左(右)とその場で足ふみをする。この動作を二度繰返す。

「今日はうれしい」。向き合つて両手をつなぎ、二人でその場を一廻りする。

「七五三」二人向き合つて止まり、お互に両手を三回打ち合はせ、「んー」の時、各自三拍手する。

「ボックリボコ／＼音がする」はじめの様に、二人並んで両手を交叉して組み、スキップで、圓周にそつて進む。

二番

「ボックリちろろん鈴が鳴る」一番の「ボックリボコ／＼音がする」と同じ動作。

「長いだもどに」。その場に止り、二人向き合つて各右手をとり、高く上げて、その下を一人づゝ交代でくぐる。

「赤い下駄」。一番の「七五三」と同じ動作。

「ぼづくりちろろん鈴が鳴る」一番と同様、二人手を組み、スキップで圓周に沿つて進む。

観

察

清 水 光 子

近くの學校、文房具

これは學校ごとに就いてその遊びの中でする觀察である。がそれと別に、何かの機會に注意してし度いことである。兄姉達が行つてゐるは時々その機會もあらうけれどさうでない子ども達も多い時、やがては行くかも知れない學校といふ處へ親しみと、淡い可愛い、憧れともいへるやうな氣持を深めるやうな意味で、

學校で運動會をしてゐる時見にゆくとか、お庭へ遊びに行かせてもらふとか、體操をみせてもらふとかして近づくことはいい事だと思はれる。そしてその折々に學校へ行く子達の作法を知らせたり見せたり、話したりも出来るであらう。文房具に就いても同じやうな氣持で扱へることゝ思ふ。この頃から何でも大切に用ふ習慣をこんな機會からでもぜひつけ度い。

落葉

掃除といふと殊更めくけれど庭一ぱい散る落葉を子ども達と楽しんではき集めたり、寄せたりする。保姆がまめに動いてその中で子ども達に手傳つてもらふといふ風にし度い。木を仰いで「すつかり散つたのね」「枯れてしまつたの」「いゝえ、ほら、こゝに小さなこぶみたいなものあるでせう、こゝに來年の葉つばが小さくたゞんで大事にしまつてあるの」「來年はつば出てくるの」「出でくるでせうね」などいふ会話をし乍ら。そして集めた葉を許さればたく。その灰は煙に入れる。又たかずく堆肥にする。「こやしにしませうね」といふ程度に話すので特別な説明はしない方がよいであらう。

煙

特別に書く迄もないけれど、落葉をいたたりなし乍らそれにほひをかいだり、けもいことを経験したり、煙がもく／＼出てもえない時吹いて焰を出してもえの所をやつて見せたりする。あまり火に近づけないやうに吳々も氣をつけて。木の葉の時や、わらの時や、木の時や石炭の時など煙の色や匂に氣をつけさせる。

又煙の流れ方にも注意し度い。

双 六

種類や内容については他の處で書かれる事であらうから省くが遊び方として、まだよくのみこめない子ども達もあらうから遊び乍ら説明する。さいごの丸の数と同じだけ先へ進むといふ簡単な數處理をすることと、教観念へ正しく導くやうにし度いことである。

談 話

志 村 貞 子

明治節 大東亞戦争下、大稜威輝く昭和の大御世に、このおめでたい日を迎へ、明治天皇の大御業を、昭和の大御世を擔ふ光榮の子等と共に仰ぎ奉り、讀へまつることの辱さ、有難さに私は胸が一ぱいになる。そしてまた、大稜威のもと、天皇を輔翼し奉つて大御世に生を享くるの光榮を辱しめなかつた我等の父祖の忠勇に感謝と感激の念を新たにすると共に、父祖の心を受け繼ぐべき自らを食み、更に光榮の子等に心を籠めて祈らずにはあられないのである。私はこの自分の心持でそのまゝ子供等に向はうと思ふ。話さうと思ふ。祈らうと思ふ。光榮の子等は日本人である。必ずや私の拙い言葉からも感じてくれるであらう。日本人の有難さを、よろこびを、そして日本人の祈りを。

見えなくなつたお椅子 繪のお帳面 これは何れも幼稚園談話集の第二輯に載るもので、幼兒身邊の生活に取材したものである。見えなくなつたお椅子の話は、物を亂棒に取扱ふ一人の男の子を中心にして、その子供(淳ちゃん)の幼稚園の椅子が夜そつとぬけ出して淳ちゃんのお家にゆき、お家の道具と相談して淳ちゃんの悪い癖をなほしたといふお話。表はれてくる道具類の描寫もいきいきしてあり、話する者も聞く者も共に樂しめる話である。物を粗末に扱ふ子供は多いものであるが、この種の話がそれに及ぼす效

あらねばならぬかは申すまでもない。それから子等の心情、態度は自ら養はれるのである。充分に心すべき事である。

國引き この話は出雲國風土記に據つたものである。我國民の雄大且明朗潤達なる性情を誠によく表はしてゐるものと思ふ。原文に據つて充分に味はれることができ希ましいと思ふ。因みに國引の様を書いたところをみると、「童女の胸鉢取らして、大魚の支太衝き別けて、はたすき櫛振り別けて、三白の網打ち桂けて、霜黒葛くるやくるやに、河船のもそろもそろに、國來國來と引き來縫へる國は云々」とある。これを四度繰返して「國引き説へ」給ふたのである。この構想、この高い調子の味ひを失はぬやうに、そのままに子供達に傳へたいものである。これを爲し得る時は、子供達の爲の上代日本の話として優れた一つの話になると思ふのである。私共の試みた國引の話は當協會發行の幼稚園談話集の第二輯に載せる豫定になつてゐるので大方の御叱正をいたゞきたいと思ふ。なほ御承知のことと思ふが國民學校のヨミカタ三の十三頁、三・國引きも御参考になさるのがよいと思ふ。

果は口やかましい叱責等よりはるかに大きいものがあるのではないかと思ふ。

殊更に駄目を押さなくとも子供の心は感じる。自然に大きな效果を期待出来るのもうれしい。

繪のお帖面は、幼稚園で三人の女の子が前に書いた繪のお帖面

を出して、順々に見てゆき遠足のこと、夏休のこと等いろいろ想ひ出して楽しく話しあふのである。これは實際あり得ることであり、子供の様子とその繪が如何にも可愛らしく表はれて来て微笑ましくなる。しかしこれは大人が讀んでの感じで、子供にとつてはどうであらうか。自分の繪のお帖面をみては、この話に表はれる子供以上に豊かな想出と活潑な發表力を持つ子供でも話として單に聞かされる時にどれ程の共感を持ち得るか疑問だと思ふ。幼児の身邊から取材することは誠に希ましいことであるがそれを如何に構成し、如何に表現するかに我々の大いに研究せねばならぬところがあると思ふ。

鳥と獸の戦争 鳥と獸の戦争で兩方とも一生懸命に戦つてゐる時に、蝙蝠だけは獸の仲間になつたり、鳥の仲間に入つたりして

戦の度に勝つた側についてゐたので、鳥獸仲なほりのお祝の時にはだう／＼兩方から断はられてしまつたといふお話。戦争の始まる前鳥獸の勇み立つ様子、戦の様子、それ／＼得意の武器などなか／＼精しく巧みに描かれてゐる。これは此方が話して聞かせるだけでなく、子供に尋ねて發表させそれ／＼の鳥獸の特長をつかませること等をしながら話をすゝめてゆく事も面白いであらう。子供の發表には此方もなか／＼教へられる事が多いものである。

戦争の様子が悽惨、殘虐に至らぬやう注意すべきである。

手

及川 ふみ

十一月も十月にひきつゞき屋外保育のよい季節である。自然觀察にいろいろの材料の多い時であるからつゞめて幼兒の注意をそちらに向ける様に保育案を作りたい。

この觀察はやがては、直接間接に幼兒の生活の内容を充實させる爲に役立つことは云ふまでもない。庭園に咲く秋草の印象は自由畫となつて表現されて來ることもあるらしいし、蟲取りにうち興じた後では、とんぼ、ぱつたなどが仕事の材料となつて作られることも期待出来る事である。

又拾ひあつめた、木の葉、木の實で自然物おもちゃの作られるのも云ふまでもない事である。木の葉、木の實を材料としたおもちゃを一二あげて見ると

木の葉のお皿

粘土を一センチから二センチ位の厚さにのばして出来るだけ平な面にしておく。幼兒のすき／＼の木の葉を拾はせて、砂や泥をよく洗ひ落しておく。平な粘土の上にこの木の葉をのせて木の葉のどこの部分も同じやうに、上からおさへる。粘土べらで周圍の餘分の粘土を切りおこす。木の葉の周圍を少しつゝもちあげてお皿の恰好をつける。葉柄をもらあげて粘土から木の葉をはなしして見る。形よく大小の葉脈がついてゐると綺麗でよい。もしも上か

らの押へ方が弱かつたり、押へ方がむらであつて形がよくついてゐないところがあつたりすれば今一度やり直すことにする。粘土をまるめて平にし直して、木の葉の粘土を洗ひおとして始めと同様な方法を繰りかへして見る。上手に出来ても下手に出来ても一度でやめないで二三枚お皿を作つて見るとよい。又形の異つたものを作る事もよい。

木の葉のお皿も、お皿の恰好を木の葉にするのと、今一つはお皿の恰好は丸でも角でも任意のものを作つておいて、前述の通りに木の葉をのせて形をつけてお皿の模様としてもよい。前者は比較的大きい葉で周囲のぎざ／＼の簡単なものを材料とするといし、たゞ模様にする後者の方は小さい葉であれば何でもよい。

木の葉の模様

自由畫の帖面に通常の大きさに周囲をとつて、拾つたいてふなどの葉の中から同じ位の大きさのものを選ばさせて並ばせて見る。始めは簡単なもので、同じ方面に並べ、次に一つおきに向をかへるとか少しづゝ複雑なものにする。又材料ものによつては葉だけではなくて、葉と實とをとり扱つてもよい。木の葉をならべて遊ぶことだけでも一つの遊びであるが、それを自由畫の帖面に寫させて、かゝせて見る。始めは形だけでよいが、次に色をぬらせて見る事もよい。紅葉した美しい様々の實物の色は直接によい色のお手本である。そうしてぬられた美しい千代紙でお人形の着物を作つたり、箱はりの紙にしてもよい。

藁のおもちゃ

藁の人形、藁の馬なども古くから作られるおもちゃであるが田舎などで藁が手軽に入ればよいが都會などでは僅かな材料よりのぞめないところでは、藁が二三本で出来る藁の刀や、手ぶり藁人形位のものがよい。

自然物おもちゃは場所により、季節によりその材料がいろいろあるから各自の幼稚園がその得られる材料を使って幼児たちを喜ばせるおもちゃを作つてもらひたいものである。

科学的なおもちゃ

幼児たちに作つて與へたり、又自ら作らせるおもちゃについて、その材料が何であつても科学的なものを少しでもとり入れてそれについての関心を幼い頃から育てたいといふ事である。

幼稚園の手技の材料のうち、この科学的なものといふことを目標にして考へて見るとどんなものがあるであらうか。保姆も幼兒もこれには全く氣づかずに作つたり、作らせたりしてある材料が數々ある事である。科学的な考査を養ふといふ事は大切な事であるのは誰もが考へてゐる事である。たゞ幼稚園の幼児たちに對しては、その程度のことなどをかゞ問題であらうと思はれる。從來どこの幼稚園でも保育所でもしば／＼作られてゐる風車などは至つて簡単ながら科学的なよいおもちゃである。風車が科学的なよいおもちやであるといふ事になると又そこで考へられる方もあるかもしれない。今までたゞ風車として單に作つたり作らせたりしてゐたが、科学的によい手技の材料であればそれを如何にとり扱ふべきかと云ふ様になつて来るかもしだせん。作りながら、風

車がまはる説明など細々とする事は勿論なくてよいのであるが、作つた風車をもて遊ばせて、風がふいてゐる時はたゞおいておいる事など實際に廻らせて見る事である。もしもこの時に、廻らなかつたり、或は廻り方が不充分であつたりした場合に、だこの工合が悪いので廻り方が悪いかを保母の方で見つけてその時こそこれ／＼のためによく廻らないからこゝをこんな工合に直すといふ事を説明しながら直すなどよい。

誘導保育

菊池ふじの

學校ごっこ 第二期も進み、運動會や遠足が過ぎると、年少

組でもお互同志の間のぎこちなさが取れて来て、相當心臓な一人のリーダーを中心にして、學校ごっこを始めるのをよく見かけます。この案はこゝを狙つたわけなのです。この子供達が自然にする遊びに、物的にも精神的にも内容を與へ、又永續性をも與へ、併せてこの遊びを利用して此の時期に與へ度い訓練要綱を子供等の間に徹底しやうとするのであります。事實、保母と幼児との間では仲々理想通りに行かない掛けの問題など、一人のリーダーを

は、別人かと思はれるぐらゐに活潑に、はき／＼と行動をしてゐるのを見ます。行動だけでなく、ものを言ふこと、お返事をはき／＼することなどこのいゝ例です。それから、以上の他にこの案で狙ふ訓練要綱とはどんなものでせうか。

ものごとをきちんと整理整頓すること、きちんとした態度、こう言つたことが苦もなく行はれます。
併しこの案は如何なる場合にも實施出来るといふことは言へないと思ひます。おとなしい子ばかりで、リーダー格の子供のるない組にさせやうとしても駄目ですし、又内氣なはにかみやさんといくら先生になるやうに仕向けても到底もなれるものではあります。又下手に大人が傍についてて始終見てゐては恥しがつてこの遊びは行はれません。この邊のこゝがなが／＼大事だと思います。

學校ごっこが恥しいながらも或る輝かしい希望に満ちた面持で子供達の間に行はれますのは、學校—國民學校が子供達にとって憧れの的であるからです。就學前期の幼児に向つて、一も二もなく、もう學校へ上るのだから、といふことを條件とし、或時はたしなめとして持ち出される場合を屢々見聞するには周知の事實であります。

扱て、學校ごっこに於きましては、机の配置なども國民學校にした方が感じが出ると思ひます。及び先達までは、國民學校の机の配置など、幼稚園式になつて來て居りましたが、この場合には、却つて所謂學校式に並べませう。それから學校用具としてどんな試みてみるとに仲々うまくいきませんのに、この學校ごっこで

ものが入用かと聞いて見た時に、子供等は異口同音に鞆と答へたものでした。鞆は入學の象徴として第一に欲しいものであるやうです。次にと聞くと、筆箱、本、お帳面、塗繪、鉛筆、クレヨン、ゴムケシ、お弁當と述べ立てました。

これ等の用具の中には、幼兒達が幼稚園で、保育用具として使つてゐるものがかなりありますので、或る場合にはそれ等を流用しやうと考へたこともありますたが、併し、子供達があのやうに學校ごつこを喜ぶ中には、こうしたお道具が、幼稚園のそれと異つた改まつた品であるといふ爲も多分にあるやうですので、事情が許すなら別に製作させた方が一層喜ばれ、又遊びの活氣もあります。では、次にこれ等の用品の製作について申し上げませう。

鞆 ランドセルらしく持へればどんなにか喜ぶことでせうが、あゝいふ形にこしらへる事はなか／＼六ヶ敷うございますから、ご本のケースを利用する事が一番手軽にも出来、又しつかりして暫くの使用に堪へると思ひます。このケースに思ひ思ひの切り紙をさせ、リボンの紐をつけて、肩から斜に下げられるやうに作ります。

筆箱、鞆が大きく、厚みもあるものでしたら、この筆箱も、古い細長い筆箱大の箱を利用し、これにやはり子供の好きな切り紙をさせて用ゐると面白いものです。若し鞆に利用した本のケースが部薄のものだと、この筆箱がはりません。實際、子供に持つて來て貰つたものの中には、筆箱もはるやうな大きい厚いものよりも、四六判のしかも薄いケースの方が多いものです。この場合には筆入れは、厚紙で折り疊んだ、たゞ式のものがよいと思

ひます。これにやはり、切り紙なり、繪なりを描かせます。
お帳面 蓋半紙で綴ぢて與へませう。

塗り繪 子供の好きさうな繪柄を四五枚臍寫版ですつてこれを綴ぢ、塗り繪帳として鞆の中に入れて上げませう。

鉛筆、ゴム消し、クレオン、幼稚園で使つてゐるものとは別にこれ等の品を與へたらどんなに喜ぶことでせうが、なか／＼これ丈の品は大變ですから適宜にいたしませう。

小さい塗板、或は幼稚園の塗板そのものを學校ごつこの塗板として使用出来る様學校ごつこの凡てのものゝ配置を考へませう。
期待效果は、學校生活の興味、訓練、手技。繼續時間は、二週間位でえう。

双 六 十一月半はなのに双六作りとは少々早過ぎて、氣分が出ないの憾みが無きにしもあらずですが、組の子供の各々に作らせるには、相當長時間を要しますので、今からぼつ／＼描き方切り方貼り方などを始めませう。

双六の繪柄は、動物づくしであるとか、お花づくし、乗物づくし等何れも面白い味ほひのあるものが出来ます。子供の希望に従つてどれでもを選ばせませう。個人々々によつて繪柄が異りますし、又一種の双六を作るのにも十数枚描かしめねばなりませんので、その指導誘導が仲々骨が折れます。

期待效果は、年中行事の興味、數観念の初步養成、手技、觀察。繼續作業時間は四週間位。一生懸命やつて、三十人の子供で、この位の日數は充分に要します。たゞ一組五十人と降らない大勢の子供を、お一人がお二人の先生のお受持ではなか／＼實施が困難なこと、お察し致します。

各地幼稚園便り

石川縣女師附屬幼稚園

作田せつ

一組

二、組
一、幼兒數

二、年限
一、職員

保育心得
一年保育
主任保育
一名

凡そ二十六名(但就學一年前の幼兒のみ)

(但本校高女卒業生を採用一ヶ年
保育實習の後保育の無試験検定

を受く。一ヶ年にて解職。毎年

新しく採用)

第一學期

團體生活に馴れさせる努力の一方で、一人一人の生活を繕ける

こと

1、天氣のよい日はきつと外へ

お日様と仲よしに

空氣とも仲よしに

花とも鳥とも仲よしに

2、姿勢のよい子はりつばな子

力のありだけを出して

美しい思ひやりも持て、

正しいことを云ふことが分りつゝ

獨立への歩みが出来るやうに

3、人に迷惑かけぬ子に

自分のことは自分で出来る子に

きまりを守られる子に

我儘をこらへられる子に

強い子に同情も出来る子に

そしてみんな仲よく

4、根氣のよい子に

みづめられる子に

考へやうとする子に

ちつと聞く子に

一、努力點

第一學期

一、保育料
一ヶ月 壱圓

一、校友會費
一ヶ月 五拾錢

1、先づ強い子に

日本の子供である

2、よく遊ぶ子に

強い尊い日本の子供である

外へ、外へ

2、運動會だ

みんな元氣に
みんな上手に

みんな一しょに

僕が負けるとみんなも負ける

3、お仕事は一生懸命に
おしまひまで

重いものは力一杯

大きいものも力一杯

4、ことばをはつきり
お返事りつぱに

お話を大きく

第三學期

寒さに耐える強い身體と心を。もう一年生、のよろこびを持たせて

1、雪だ、雪だ。外へ、外へ

頑張れ 強い子

雪に負けんな

2、姿勢を正しく

口は一の字

腰を伸ばして

第二學期

一人一人の生活をより正しくさせると同時に、團體としての生

活を整へさせて行く。

1、秋だ、秋だ。うんと強いからだね

6、御飯の時は

手を洗つて

兵隊さん有りがたう

お父様、お母様、戴きます

よくかんで
きれいに戴く

箱の中はきちんと

5、お約束も守つて

お靴は並べて

お辭儀は丁寧に

3、元氣で遊べ

鬼さんもいゝ子
プランニ天まで
みんな仲よく

4、お行儀よく

宮城の遙拜はりつぱに

お約束も守つて

お靴は並べて

お辞儀は丁寧に

2、腰をのばして

お口は一の字

腰を伸ばして

1、腰をのばして

大きくなつたよ

お辭儀もりづば

よくお始末出来るか

手も美しいか

鼻汁が出てゐないか

みんな仲よく遊べるか

一、母の會

國民學校と共に母の常會と云ふのがある。毎月一回開催せられる。但しその時の會の行事によつて幼稚園に關係なき場合は幼稚園の父兄を除くこともある。隨つて又左記特別な事情ある時は幼稚園のみの母の會を開くことにしてゐる。

○四月 入園の時

保育方針を語る

○五月 辨當入用となる時

食事に関する談について話し

其他幼兒食事状況を聽取

○八月 お休中

全児の家庭訪問

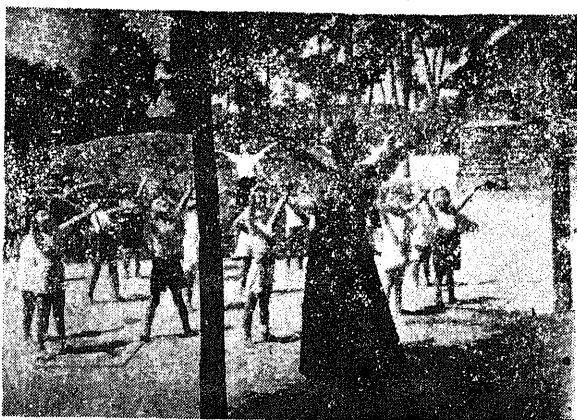
○十二月 特別個別の詰合

○二月 冬の保育見學

一、寒まれたる環境

出でゝは名園兼六の清風を眞面にうけ、これを上れば約四丁に

して護國の御社あり、嘗て戰勝を祈つて日參した御社であり、今大詔奉戴日には感謝の誠心をこゝに捧げてゐるのである。下れば古城大石垣の下、大ばこ根を張り、タンボ～飛び、一面の雑草と



陽を浴びて 折れそうな身體がある、丸々と肥つてゐるのもある。裸體で遊んだ後は藤棚の下へ集つて乾布摩擦、下手ながら擦つてゐるから面白い。乾布摩擦の時だけは何か大人になつたやうな氣がするらしい。手拭をきちんと疊ませるだけでもいい訓練である。

クローバ。時に毒草を知り、時に薬草を見出し、時に珍らしき蟲を追ふ。樹蔭亦暑さを癒して餘りあり。雜草に缺く校庭の短をしばゝ此處に補ふて日がな一日。尾山の社頭亦六丁の内にあり、

豊かな自然は貧しき保母の力を補ふて子等は又すくくと育つて行く。(一七、七、三〇)

國寶の山門も子供等の懷しいものゝ一つ。更に道を隔てれば大縣廳あり、前庭二本の椎の名木。實のる頃ともなれば子供達園の往き歸り忘れ得ぬ樂しみの一つ。

掇、園に入れば、藤蔭將に四十坪。或は盛夏を忘れしめ、或は又雨を覆ふ。初夏紫房蜂の群を呼んで翅音がまびすしく、やがて花散れば、陽光葉陰を洩れて汗の子等をいたわる。御大典奉祝記念の築山は周圍約二十五米、校庭も此處だけは雜草を殘して子供等の最もよき陣地。時に野菊の一輪も咲出で、床しい秋の風情を見せる。

園舎は校舎の一隅、天井も煤け、窓亦暗く、晝尚電燈の光を借るの舊態なれども、この裏まれたる大いなる環境に子等は唯すべくと伸びるのである。國民學校と併置の有難さは、うさぎ、鶴、龜、鳩、金雞鳥、金魚等々年中飼育の動物を始め、四季折々の動植物、稻の稔りから、冬のねぎ島まで、その觀察環境の豊富なことである。今前庭の蓮島には紅の蓮花一莖、今年珍らしく花をつけて子供達を驚かしてゐる。今夏は學校農園の馬鈴薯掘で子等を喜ばせた。秋は又さつまいも掘、里いも掘、やがて初冬白菜の収穫も手傳はせて貰ふつもりである。四坪餘りの幼稚園菜園は今トマトの盛り。胡瓜は七月月中旬既にその収穫を終へて給食の食膳にお膳として、カボチャは今二個大きく熟しやうとしてゐる。二十日大根は五月から六月にかけて収穫し酢のものとして給食に、尙十個づゝばかりは家庭にも分つてこの大きな子等の誇りを喜んで貰つたものである。

山口縣私立深川幼稚園

松岡唯介

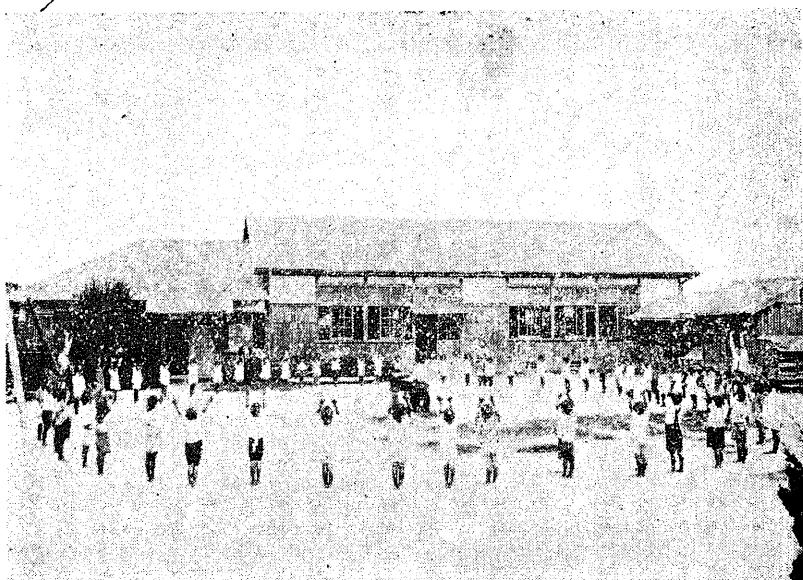
一、創立 本園は昭和七年の六月の創立であります。爾來早くも十年を経過しました。併し今日まで貴誌に於て紹介された幼稚園に比較されればまだ赤子であります。

園児が徒步通園し得べき範囲には六部落と戸數五百がありますから園児數も設備も微々たるものであります。

正明市に鐵道の通開しましてより十八年になります。開通以前は一面海、三面峯巒に包まれて世の文化と隔り、民衆も幼稚園は知つて居るが、保育事業保育會など申しては一向通じないのでありました。教員も父兄も幼兒教育には面を向けざる時代の設立でありましたから、創立にも發展にも非常な苦心がありました。

二、園の環境 約一〇アールの上田を埋立て、園地としました。西及北は民家に隣接し、東及南は田圃を隔て、民屋があります。その屋根越二千メートルに山脈連延し、四季の眺望宜しく且つ夏は涼しくして舍内暑さを感じず、冬は暖かにして暖房の装置も短期にてすみます。

三、園児及職員 園児は百名を上下して居ます。園長の私以外保姆としての女性四名居ります。私は園長でありながら他の社會的



山口縣私立深川幼稚園

奉仕的職務のため毎日の出勤困難の事情のため、園長格の保母を得るに苦心するのみならず、時局の關係は女學校青年學校卒業者は諸團體學校等が吸收して幼稚園には中々人が得られません。

如斯事態の中に母にまさる慈心の女性を得んどする懨みは普通ではありませんが、本園は幸にも子女を有する二女性と地位あり裕福にして幼兒保育に趣味を有する女子青年が、私の保育事業を奉仕的に援助下さるので仕合せして居ます。

四、保育に就ての難感

1、近來は訓練とか鍛錬とか鍊成とか盛んに唱導せられ、私も國民學校令に準じて國民保育の目的内容等にも一段の検討を致し、將來大東亞の指導者となるべき皇國民の魂の育成に遺憾のない様にするに就て、權威者の指導先進各園の保育方針諸施設の公開を切望するものであります。

2、家庭教育は協力 家庭は幼兒の生れる處生れて後住む處強く育てゝ貰ふ處(食物、疾病豫處、健康増進最善の處、慈母の居る處等)習慣をつける處、意志の鍊成奮發心を起させる處、仕上げて貰ふ處等々、私が教育學より得た概念でありますが、保母にも是等の諸點を確知せしめ常に園児の家庭を視察して放任せられ居る方面はその覺醒と改善に努力として居ます。

3、遊園地——運動場 自然の保育場たる本運動場は平坦にして限界の展望廣く、乾燥溫潤適度で終日園児は諸設備を駆使して活動性を満足せしめ、日光を浴び、新鮮なる空氣を

満喫して嬉々として居ます。

園長室より遊園地の全部が視界に入り、外庭に於ける園児の活動は細大悉く觀察が出来る様になつて居ます。私の出勤時間の大部分外庭に於ける園児生活の觀察に費して居ます。其の結果園児の個人的活動に或は團體的生活に必要な施設を發見し修繕すべき點、改造すべき施設に氣が付きます。

時局の影響、生活訓練、保育の效果が外庭の諸施設を利用して生活する状態を透して味はゝることも頗る愉快に思ひます。

4、園外園地　園の運動場には山あり谷あり池ありて、郷土の縮圖の様なのがよい。

多田の濱、妙見山、宮地、田屋の松林、飯山宮、五十鈴神社、赤城山、前中山、深川高女校、仙崎祇園社、大寧寺、等がそれであります。何れも史蹟を有する地であります四季天候を見はかつて園地に終日生活させます。

5、勤労教育　人は一生を通して至誠であり勤勉でなくてはなりません。幼時よりこの訓練を受けてやがては立派な自立自營の皇國民とならねばなりません。而して此の勤労の習慣をつける機會は家庭に於ても園に於ても充満して居ます。家庭でも園でも愛に潤れる結果自力が悉く勞をとりよき機會を逸するは通弊であります。園児は園児相應に骨身を厭はず勤労の訓練をさせねばなりません。私は登園す

る、鋸や槌鋸や鎌を握ることも相當あります。園児は私を取りまいて用達を命ぜらるゝを待つて居ます。一汗になつても勞を惜みませぬ。之は園児の通有性と思ひます。食事について園生活に慣れたら可成早く晝食を持参せます。園児は園で食事することを大なる樂みとして居ますが、園の目的は咀嚼の訓練であります。一ヶ月もしますと今迄の早喰が改善せられ、食事時間は實に行儀よく静で保姆が監督せずとも差支ない様になります。

園の水は大變よろしい故に、要求するまゝに生水を與へて居ますが、園外では絶対に生水を飲まぬ様躊躇して居ます。

7、保育項目　新任保姆には出勤第一に園の刷物に依り保育項目の大要を把握させます。保姆は兎角保育項目に囚はれ易い傾きがあります。園児との生活は室外よりは室内に流れ易くあります。天候のよい限りは室外保育を主にして居ます。

8、時局認識を深めること　皇太神宮及宮城の額、東洋地圖、世界全圖、時局に關する繪畫寫眞、新紙上に發表された戰果戦鬪狀況等の切抜、等本園では以上の資料により時局の認識を深め、出征將兵の送迎は園庭に於て汽車の通過に國旗を振り萬歳を唱へしめます。

9、學藝會　毎年三月中旬卒園と國民學校へ入學を祝する意味を以て劇場近松座に於て學藝會を開きます。

以上

兒童心理學

(第八講)

牛島義友

劣等感にもとづく性質(二)

前回は子供の劣等感に基く性質として補償作用等を中心にして述べたが、劣等感があれば必ず強く反撥するとは限らない。反抗的態度は、意志の強い意地張った子供に見られるが、意志の弱い子供、或は何度か反撗してみたけれども巧くゆかなくていちげてしまふ子供も澤山ゐる。斯る子供は最も安易な路として自分一人の世界にこち籠る様になる。今回は斯る消極的な形で自身防禦をやるものについて述べる。

弧立化 幼稚園や學校に行つても友と一緒に遊ばうとしたが、一緒に遊戯やゲームをするよりも本を読んだり一人で出来る遊びをしようとしたが、同年の子供よりも年少の子供を遊ばうしたりする子供。又遊びも勉強もしようとせずぐづくした子供、いつも傍で傍観して見る子供、無理に仲間に入れようとする厭がり、人の前で何かさせようとする直ぐ赤くなつたり青くなつたりする様な子供。

或はぼんやりし放心した様な状態で時を過してゐる子供。

斯る子供の態度は種々な原因から来るが最も多いのは強い慢性的の不安から來てゐる。即ち初めは色々とやつてみて自己妨禦を試みた譯であらうが、何回も失敗したために、新しい防禦法を構するよりも、寧ろ身を引こうとする様になつたものである。或は又餘りに厳格な訓練のためにいじけてしまつて斯んな子供になる事もあるし、又身體が弱いために友達と活潑な遊びをせず一人で本でもよむ習慣がついて斯くなる事もある。さこの幼稚園にも斯る型の子供があるが、保姆や先生からは比較的軽くあしらはれてゐる。積極的にいたづらをしたり、無理を言つたり、反抗する子供は直ちに先生の目につけ困つた子供として大騒ぎされるが斯る内氣な孤立した子供は他の者の邪魔にはならず、おこなしくしてゐるので教師から氣付かれるのも遅いし、氣付いても餘り問題とせず放置しがちである。併し精神衛生的にみると實は斯る子供の方が問題であり、厄介である。

積極的な子供は自分を開いて人を接し、教師の教へや暗示にも従つてゆくが、斯る積極的な子供は自己を閉鎖してゐて、先生や親の言ふ事や、影響を受入ようとしない。従つて教育指導する事が極めて困難である。又斯る子供は先生の質問に對しても中々答へようとせず、知つてゐても返事をしない。それで先生から低能ではないかと間違へられる事さへある。斯るものを偽似精神薄弱と言ふ。

拒否症 前のものはおとなしく小さくなつてゐるが、更に激しく自己を人々から分離させ、人々からの働きかけを拒否し、反抗する様になるものがある。或十一歳になる女子は一向に、親教師の言ふ事をきかず、始終他の子供を喧嘩ばかりしてをり、學校に行つてもオーバーを脱がうこせず。他處に行つてお坐りなさいと言はれても坐らうこせず、間はれても頑として口をきかない。この子は智能も少し劣り、家庭も良くなく、背柱彎曲して歩き方が變であり、其上顔が醜いと見てゐた。斯る事の爲に著しく劣等感を懷く様になり、而も母親の教育態度も誤つてゐたために斯る子供になつたのである。彼女は自分の馬鹿さや失敗をかくす唯一の手段として一切の刺戟を拒否し、何も言はぬ事にしてゐるのである。

空想癖 之は力に對する要求、劣等感の補償を實際に満す事が出來ないために、非現實的な空想の世界で自己の希望を満足させようとするものである。之は最も容易な方法であるので誰でもごく傾向である。大人の人は自分の都合のよい様な希望的觀測をして樂觀しようとすると、青年は白晝夢に耽つてみ、子供は空想的遊びをしたり、想像の友に話しかけて樂しんだりすることの態度が激しくなることが數多い宿題が出される遂に自ら解決する能力を止めてしまつて、茫然と机の前に坐つて時を費してしまふ。斯る場合の空想の世界では、この現實の敗殘者が英雄になつて、自分の希望を實現せたり、或は自分の出世や成功の爲に他人の失敗や死を願望したり、或は自分を世間から誤解され迫害されてゐる偉人の様に思ひこんだりする。

斯る空想癖の困る點は、第一に時間の空費であり、第二に現實に成就しなくとも満足してしまひ、努力が乏しくなる事、第三は空想の結果自分一人で勝手な世界を作り、ロマンチックな世界を夢見てゐるために現實に接してひざく失望したりする。例へば結婚生活に入つて、夢が破れて悲しむ如く。

退行現象 新しい場面に巧く適應する事が出來なかつた場合に過去に於て成功した遺方に戻らうとする。一つ前の段階に於て成功した手口を、複雑な場面にも應用しようとするものである。即ち成長した子供が子供っぽい態度や、

赤ん坊の眞似等をする事がある。例へば次の子が生れたために、今までの様に手をかけてもらへず、色々な事を自分でしなければならなくなつた子供が、急に赤ん坊らしい行動をする様になつた。例へば床に倒れても起上らうさせず、泣き乍ら起して等々言つたりする。或は次の中へん坊が生れた爲に今まで出来てゐた排泄の習慣がこはれる事が屢々ある。青年の場合だゝホーム・シックの形をとる。家庭を離れて寮や下宿の生活に移る等、新しい独立的な態度をとらねばならぬが、それが愉快にされない時に、昔の家庭生活が一層したはしくなる。

斯る退行現象には親の態度も責任がある。親が子供をいつまでも子供あつかひして、独立性を養つてやらない等の斯る傾向が助長される。斯る子供は積極的に努力する事を止めようとするので精神發達が遅れる恐れがある。

恐怖症 以上の孤立や空想位ではまだ大して問題にもならぬが、之が更に昂じる等恐怖症にまでなる事がある。即ち自分の劣等な點に關し常に氣になり、それが人から衝かれる事を恐れてゐる爲に恐怖症にまで昂ずるのである。この恐怖症は一般に精神が不安状態にある等言ふのではなく、特定の對象に對して恐怖が現れて来る。

例へば或 사람은 눈에 대して 강한 공포를 품고 있어서, 그의 얼굴을 만날 때마다 공포의 감정을 드러내는 경우이다.

時も相手の視線をそらして言ふ。久しい間この目に對する恐怖症を持つてゐたが、最近は特に著しくなり、夜は恐しい眼をして見詰める人の夢をみてうなされたり、無意識の中に怖い目等口走つたりする様になり、其爲に學業もはかばらず、社交性もなくなり、孤立してしまつた。

或心理學者が之を治療するために精神分析をしてみた。即ちこの恐怖と關係のありそうな事柄を色々と想ひ出させてみた。併しその關係のありそうな事件は仲々思ひ出せなかつた。やつと四回目の分析の時に或事件を想ひ出した。それは彼女の十一歳の時に見た映畫である。或狂人が逃亡して飛行機を窃み、客を乗せたまゝ飛出した。其時の狂人の荒々しく見つめる眼が想ひ出された。併しこの經驗は恐怖の真の原因とは考へられないので、更に記憶を逆上させた。すると一週間後に次の事を思ひ出した。即ち七歳の時、或日親類の家を訪問した事がある。そこには盲のお婆さんがゐた。子供の事であるので其家の戸棚の抽斗をそつと開けてみた。處が其中に殆んど眞物の様なぎらり光る目玉を入れてあつた。之は盲のお婆さんの義眼であるが、それを見て彼女はひゞく吃驚した。後年になつてこの事を告白する時さへひゞく興奮し涙を流し乍ら話した程である。而してこの事は今まで誰にも話した事の無い事ですと言つて打明けた。これで眞の恐怖の原因に突き當つた譯である。從

つてこの治療法はこの出来事を繰返して想ひ出させる方法をさり、何時も意識させ、之は何も恐ろしがる事でも、恥づべき事でもない事を納得させてやつた處が、この恐怖はされて行つた。

斯く幼時の特殊な経験が原因して恐怖症を起す事があるが、其特色としては、

1、小児期に起つた激しい恐怖的経験から来る。

2、その出来事は抑壓されてしまつて、普通は想ひ出せなくなつてゐる。

3、その事件は多く、羞恥或は罪惡の意識を起させるので自ら口にしようさせず、考へようともしない。この事が劣等感と同じ働きをする。

4、初めは特殊な事から生じたものであらうが、段々他の

5、しかし之を強ひて想ひ起さす事によつてこの恐怖症は直つて来る。

斯る點が特長であるが、就中恐怖症を起すに重大な點は抑壓されてゐる事である。幼時に激しい恐怖を経験しても、其事を祕密にする事なく、其場で親に訴へるなりしてれば恐怖症は起らない。子供らしい考へから恥しいとか悪いだ事こ思つて一人心の中に祕めてをくゞ、假令自分は忘れてゐても恐怖症の原因になる。

精神分析に於ては凡ゆる抑壓觀念は性的なものゝ關係があると言ふが、之は必ずしも正しくない。性との關係がない場合でも恐怖症は起る。併し性的なものが最も恐怖症の原因になり易い事は認めねばならない。何となれば性的なものは抑壓され易いし又恥や罪惡感と結び付くからである。以上の外に更に劣等感から来る病的症狀が色々あらうが、餘りに専門的になるからこれ位にしてをく。

斯る様に劣等感が色々な性質の子供を作つたり、困つた子供にしてしまふので、其對策、教育にも充分注意しなければならない。斯る場合、症狀や徵候に對する對症療法的な教育治療法は殆んど役に立たない。眞の原因をつきこめて、夫を根治する方法が一番效果がある。其爲には専門の教育相談者や精神病學者に相談する必要がある。

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の



昭和十七年
十月

幼稚園から

鍛錬ご心もち

よき秋。天地のひきしまる秋。この季節こそ、ほんとうに、みつかりと鍛錬の出来る時です。

ところで、鍛錬といふと、専ら身體のことのやうに思ふことが誤りで、心身一つにならなければ鍛錬であります。それと同時に、鍛錬といふと、たゞもう苦しいこと、强行一方のこと、考へられることがあります。之れも、誤りといふ譯でないとしても、鍛錬の充分な心理を捉へてゐるものではありません。勿論、鍛錬は氣まずい氣まゝでは出来ない。いやならよすで、氣にもいてゐることだけるといつたものではありません。いやでする、苦しくともする、そこに鍛錬がある譯です。

しかし、だからといって、たゞ外から強ひるばかりで、ほんとうの鍛錬效果を擧げることは出来ません。況してや、機械的に動かされてゐるだけで、眞の鍛錬になるものではありません。それを樂しみ、それを進んでする氣もちが、内にも伴ふるるなくては、眞に身心一體の訓練は出来ません。しかも、それを幼児に起させるのは、周囲のものゝ氣もちです。周囲のものに先づ、その氣もちが豊かに活潑にならなくては、決して眞の鍛錬は出来ません。

○子どもの服装、持ちものゝ類を、質素に堅實に、そして、お母さまの手づくりにと、先月の此欄で御相談しました。それに同じく、幼稚園の方でも、物の儉約といふことを、周到に氣をつけてゐますから、御協力下さい。

○紙も大切にします。手技用には、古葉書、古雑誌の紙といつたものを使ひます。その紙だつて再生して、又新らしい紙になるのですから、切つてもその切れ端でも捨てないようになります。紙屑箱は大事な物資貯蔵箱です。

○色鉛筆、クレイオンは特に大切に使はせます。一本でも粗末にさせません。クレイオンは折れないよう包み、鉛筆を短くなるまで用ひます。箱にしても、こはれをつくろつては、長くもたせます。

○けちでこんなことするのではありません。これが戦時下の教育なのです。

母の
講座

戦時家庭教育心得 (二)

文部省指示要項解説

倉橋惣三

一 我國の家の特別
なところ(つづき)

(口) 我國の家は遠い先祖から子々孫々傳へられてゆく一貫のつながりであるところに、大きな特色のあることを前に言ひました。即ち、親子一代の關係を中心とするものではなく、祖孫の長い關係が家なのです。

その祖先のもとをどこに求めませう。

恐れ多いことながら、日本の國の御祖先こそ、日本の家の祖先の祖先でいらっしゃれます。その國の御祖先の直系の御子孫こそ、代々つぎつぎに國をお始めになる皇室です。してみれば、子として親に對することと、家として國に對すること、それは切り離される別のことではあります。こゝに、日本の家では忠と孝とが一本になる譯があるので、又從つて、

その一本の忠孝を以て、子女を鍛成していく道場だといふことになるのです。日本のお家庭教育に於て、忠孝が一番の中心になるのもその爲であり、日本の家なればこそ忠孝一本といふ特別の鍛成の出來るものとの爲です。忠といふ道德は他國にも似たものがあるところもありま

う。孝といふ道德は、それの形に於てはあるがどこの國にもありません。

たゞ、その忠孝一本であること、といふよりも、一本であるところの忠孝といふものは、日本だけにあるのです。これは誠に、意味も深く、又、有り難くも有り難い、日本獨特の國民道德といへるもののです。

(八) しかし亦、以上二つの、國とのつながりの點だけが、日本の家の姿ではありません。こゝに、日本の家では忠と孝とが根を置いて、家族の團結があり、

本榮養位
厚生科學研究所
國民榮養部 佐々木理喜子
子供向きお菜

此の夏の終り頃から秋口へかけまして、お腹をこわした方が多く、色々と材料も思ふにまかせず、どんな食事を攝つたらよいのか、お困りの場合もあつたと

思ひます。それで手近の食品で容易に出来ますので二三申上げます。軽い大腸カタルで下痢をした後、流動食を用ひ、次に軟いお粥にうつります時を中心致しませう。孝といふ道德は、それの形に於てはあるがどこの國にもありません。

重湯

普通の重湯は水の様で榮養分も少くないでの次の様に致します。軟いお粥を煮まして、裏漉しにかけます、これを水少量づゝ入れて糊の様に滑かにのばし、鹽味をつけて、一度煮立てます。

〔スープ〕

味噌汁は鹽氣が多くて刺戟しますから止めます。半乳を三倍に水で薄め、メリケン粉を少量入れて、白いドロリとし大汁を作り、鹽味にします。時には此れ

老を養ひ、幼を扶けるといふ、なごやかな家族愛が行き渡つてゐるのです。又その親しい家族愛に培はれる自他一如の點と物心一如の點こそ、著しい特色なのであります。

一大修練に基いてこそ、進んでは世界新秩序の建設の心とも力となるものが培はれてゆくのです。即ち、我國の家は、國に出て、世界の新秩序の建設に向ふ、一大國民機關でありますと共に、その内には親密情味の濃かな家庭愛を湛えてゐる人間機關なのであります。ですから、日本の家庭教育も、此の家の所産として、どこまでも、人間的であると共に國民的なものなのです。又世界的意義をも併せ具ふるものなのです。

家庭教育といふことは、我家、我子といふ、謂はゞ狹い心と、極く個人的な感情のものであるように思はれたりもしますが、それは、たゞ人間的一方で、國家的本質をもたない、外國の家の家庭教育のことです。我國では、家卽國ですから、我子を愛する心は、國の子を愛する心に他ならず、我子を教養することは、國の子を教育することに他ならぬのです。で

すから、我國の親は、我子の親として、國の子の親であるのです。その責任の大いと共に、その貴さも高いといはなければなりません。

斯うしたことは、昔から我國の家の特質であり、我國の家庭教育の特色であつたのです。歴史の上に、その著しい例も譯山あることです。しかし、泰平の世、又、我國が武家封建であつた時代には我子は藩の子といつた特別の考へ方も行はれてゐました。しかるに、今日は、國が國としてこの大きい戦争と建設を擔ひ、進んで世界新秩序に向ひ、人々が皆國民として總動員せられてゐるのであります。そこに、日本の家の特質が、特にしつかりとあらはれて來ました。新らしく出来たとか、況んや、新らしく作つたとかいふ特質ではなく、もどからゐるものですが、それが、はつきりして來ました。従つて、今日の家庭教育は、實に日本の家庭教育になり切つて來てゐるのです。即ち、今日の親は、實に日本的な親の自覺を、おのづから強くもつてゐざるを得ないのです。

お互、いゝ御代に親として、此の大きい貴い特色を自覺することの、何んといふ有り難いことでせう。

〔果 汁〕
野菜は纖維があつて不消化ですから馬鈴薯以外に用ひられません。それでビタミンCを果汁で補ひます。林檎でも梨でも結構です。皮や芯も取り、卸金ですり、布巾で汁を絞つてコップに入れます。一回分半個か一個分でよろしい。同じでは、飽きますから、片葛を軟く作り、其の上に果汁をかけて、一緒に食べると美味しいものです。

〔南瓜のマッシュ〕

南瓜を軟く煮て重濾し、少量砂糖を入れて火にかけて餡の様にねります。これは馬鈴薯、里芋で作りましてもよろしい。以上の様な品を食事に少量宛取り合せて、二三日食べ、それから軟いお粥につります。

十月の衛生 醫學博士 斎藤文雄

□ 凡そ子供の健康といふ事を考へて見ますと秋位悪まれた時はありません。精神的にも、肉體的にも、最も健康な時は神であります。その證據には毎日の缺席を検べて見ますと秋は數も少ないし、休む子も事故缺席が多い事に気がつきませう。

□ この健康季節を狙つて、いやが上にも健康を増進させやうと考へますのは誰しもの事であります。それには運動會もあります。遠足もありませう。今日はその中遠足の注意を先づ書きたいと思ひます。

□ 遠足は教育の上からも實際に色々見聞いたしますから大變役に立ちますが、同時に身體の上にも効果があります。日に當る、いゝ空氣を吸ふ、風に曝される、色々な筋肉を鍛錬させる事が出来ます。その中、筋肉の鍛錬といふ事は、餘り詳しく取り上げませんでしたから今日はそ

の事を申し上げます。

□ 筋肉は、普段使ひ慣らしてゐますと、長い間疲れないで働かす事が出來ます。然し遠足等いたしまして普段の働きだけでは間に合はなくなりますから疲れで参ります。しかも普段住みなれの所へゆきますから、使ふ筋肉も違ひます。坂を登る時の筋肉、降りる時の筋肉、各々違う筋肉を使ふのですから、その意味で普段山地にある子が平地、又は普段平地を歩いてゐる子が山坂を歩く様な事になりますと、餘計疲れが早く参ります。

□ ですから遠足の場所をえらぶにも、さういふ事を頭に入れておかなければなりません。山へゆくなら山へゆく様に、少し足慣らしをしておく事が大切でせう。餘り急に痛めつけでは、鍛錬どころか却つて害があります。段々に慣らしてこそ鍛錬であると思はなければなりません。

□ 小春日和の日中は秋とは申しながら、まだ仲々暑い事があります。さういふ日當で遊んでなります時は、シャツ一枚でも大丈夫です。朝の中、うすら寒い様な時に、一寸薄いエスター等着せておきますと、日中暑くなりましても、子供は「着たきり雀」で脱ぐ事等いたしません。さうして、汗をかいて下着を濡らしてなります。これは皮膚に大變よくない事です。秋の間はここに着物については細かい注意を拂つてやりたいものです。

□ 扁桃腺が大きくて、冬になると風邪ばかりひく子、アーノイドがあつて腹這ひにばかり寝たり、いびきをかいだりする子、さういふお子さんは、秋の間に、耳鼻科の先生に御相談して下さい。切つてしまつた方がいい様でしたら、秋こそ良い時機と申さなければなりません。それに關係しますが、含嗽のお稽古はすみましたでせうか。早く教へておいて下さい。

□ 秋は色々果物が熟れたり、お蕷がとれたりいたしますから御注意下さい。歯の悪い方は殊に柿等喰べると不消化になりますから、歯の方も丈夫にして何でも食べられる様にいたしませう。

日本幼稚園協会編輯 幼兒の教育

會長

東京女子高等師範學校長

下村壽

主
乾

東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主任事

卷之三

日本幼稚園協会規則

第一條 本會為幼兒教育、改良發達之圖

第三條 本會ハ日本幼稚園協会ト稱ス

第三條 會員外ランナノハルノハリノ会員ノ
ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナ
シニテス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ繳出スルニ、會員ハ無料ニテ本

會發行新詩、書有文學研究會、二關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第三條 令聞名望ノハノニシテ本領ニ
業ニ碑益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒ

第六條 効羅園ニ關係アルモノニシテ本

モノニ講ヒテ地方委員トナスコトアル

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク

二、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査

第一九條	本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長	一名　會務ヲ總理ス
主幹	一名　會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
幹事	若干名　會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
評議員	若干名　重要ナル事件ニ關シ 會長ノ諮詢ニ應ス
第十條	會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
第十一條	主幹　幹事　評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推薦スルモノトス
第十二條	本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
第十三條	本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

幼兒の教育 第四十二卷 第十號

禁
發
行
者
倉
橋
惣
三

轉 印刷者（東東二五）柴山則當

聯合書印所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

振替口座東京一七二六六番

す。本講義文の方は見て前金で秋井て原ひも

す。東京一七二六六番田本幼稚園故會元に願ひ上

明記せられだし。
本誌の代金に對しては別に預貯金を差出しし

一、預ひます。

其節は早速御送金を願ひます。

一本読みの東本銅入用の場合は前金參拾五錢を送ります。

定 規 文 注

毎月四一年五月十五日第三種郵便物認可
同一日發行

幼兒の教育 第四十二卷 第十號

昭和十七年九月二十八日印刷納本
同月一日發行



定價參拾五錢